

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季ごとにアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて 1 グループに 1 名 (1 回答) を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所 (10 地点)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬季：令和 5 年 1 月 2 日～令和 5 年 3 月 7 日
- ・ 春季：令和 5 年 4 月 30 日～令和 5 年 5 月 28 日
- ・ 夏季：令和 5 年 7 月 15 日～令和 5 年 8 月 19 日
- ・ 秋季：令和 5 年 10 月 7 日～令和 5 年 11 月 5 日

※ 1 日で十分なサンプル数を得ることができなかった調査地では複数日で調査を行っている。

- ・ 冬季：龍河洞、アンパンマンミュージアム、黒潮本陣、モネの庭 (各 2 日間)
- ・ 春季：モネの庭 (各 2 日間)
- ・ 夏季：黒潮本陣 (各 3 日間)
- ・ 秋季：アンパンマンミュージアム、土佐和紙工芸村 (各 2 日間)

● 調査結果の概要

過去4年で「3泊4日」が最大。県内旅行日数は前年と同じ2.1日。

日帰り客と宿泊客の割合（P17：表3-1）は、「3泊4日」が5.5%と過去4年の調査を通じて最大となった。前年比では、「日帰り」と「3泊4日」が増加し、その他の旅行日程が減少となっている。

県内旅行の平均日数（P24：図5-1）は前年と同じ2.1日となっている。主要な発地ブロックでは「近畿」が横ばい、「関東」、「中国」、「四国」が減少となっている。

「関東」と「九州・沖縄」からの入込が過去4年で最大。「四国」と「近畿」は減少。

発地ブロック別入込割合（P20：図4-2）は、「関東」が16.1%、「九州・沖縄」が4.8%と過去4年の調査を通じて最大となり、「四国」が29.5%で最小となった。前年比では、「中国」は1.4ポイント、「九州・沖縄」は0.8ポイント、「関東」が0.1ポイント増加となった。その一方で、「四国」は1.9ポイント、「近畿」は0.4ポイント減少となっており、令和2年度から減少傾向にある。

前年から大きな変動はなく、「1人旅」「6～10人」「11人以上」の団体旅行が微増。

旅行形態割合（P29：表8-1）は、前年比で「1人旅」が0.7ポイント増加、「友人知人」が0.8ポイント、「家族」が0.3ポイント減少などと大きな変動はなかった。同行者数割合（P30：表8-2）は、前年比で「4～5人」が1.2ポイント、「2～3人」が0.2ポイント減少となり、その他の同行者数はやや増加となった。

県内平均消費額は、前年比で1,563円増加の27,639円。

県内平均消費額（P35：図10-1）は、前年比で1,563円増加の27,639円となった。費目ごとの変動（P35：図10-1参考①）は、前年比ですべての費目で増加。「宿泊費」が717円と大きく増加し、「交通費」と「土産代」は令和3年度以降から増加傾向となっている。

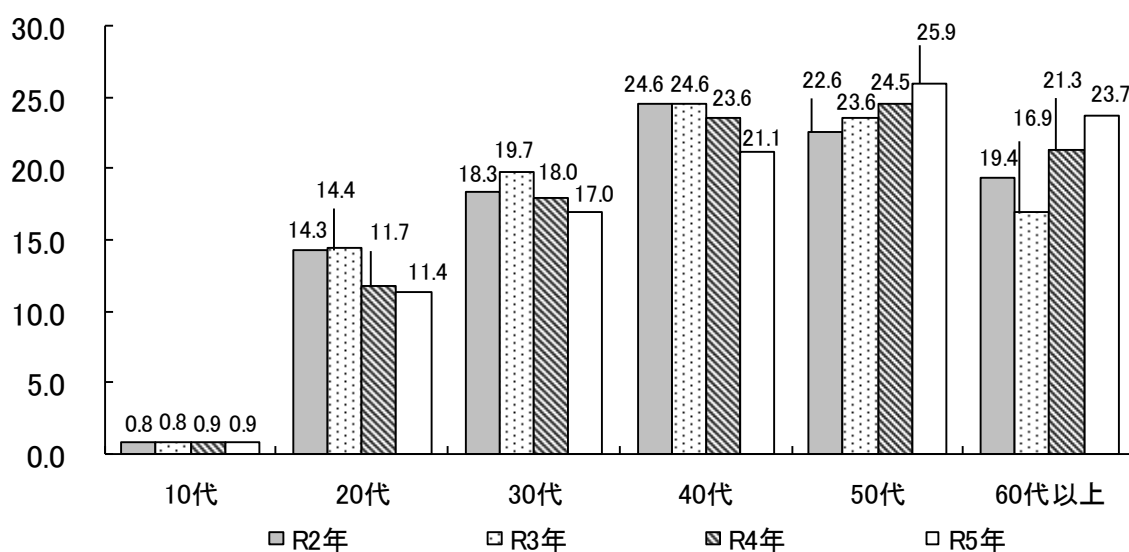
四季別（P38：表10-2）では、春季以降は1,000円以上の増加が続いた。

2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [R2 年~R5 年]

	R2 年 (n=2,656)	R3 年 (n=2,460)	R4 年 (n=2,993)	R5 年 (n=3,103)	対前年比 R5 年/R4 年
10 代	20	20	28	29	100.0%
	0.8	0.8	0.9	0.9	
20 代	379	354	350	352	97.4%
	14.3	14.4	11.7	11.4	
30 代	487	484	540	528	94.4%
	18.3	19.7	18.0	17.0	
40 代	654	604	706	653	89.4%
	24.6	24.6	23.6	21.1	
50 代	601	581	733	805	105.7%
	22.6	23.6	24.5	25.9	
60 代以上	515	417	636	736	111.3%
	19.4	16.9	21.3	23.7	

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [R2 年~R5 年]



(表 2-1 参考①) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [R3 年～R5 年]

	R3 年 (n=2,460)		R4 年 (n=2,993)		R5 年 (n=3,103)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10 代	9	11	9	19	12	17
	45.0	55.0	32.1	67.9	41.4	58.6
20 代	233	121	218	132	213	139
	65.8	34.2	62.3	37.7	60.5	39.5
30 代	333	151	324	216	321	207
	68.8	31.2	60.0	40.0	60.8	39.2
40 代	419	185	454	252	406	247
	69.4	30.6	64.3	35.7	62.2	37.8
50 代	420	161	499	234	535	270
	72.3	27.7	68.1	31.9	66.5	33.5
60 代以上	313	104	427	209	503	233
	75.1	24.9	67.1	32.9	68.3	31.7
計	1,727	733	1,931	1,062	1,990	1,113
	70.2	29.8	64.5	35.5	64.1	35.9

年代別旅行者割合をみると、50 代が 25.9%と最も多く、次いで 60 代以上が 23.7%、40 代が 21.1%と続いている。前年と比べ 50 代、60 代以上が増加し、20 代、30 代、40 代が減少している。

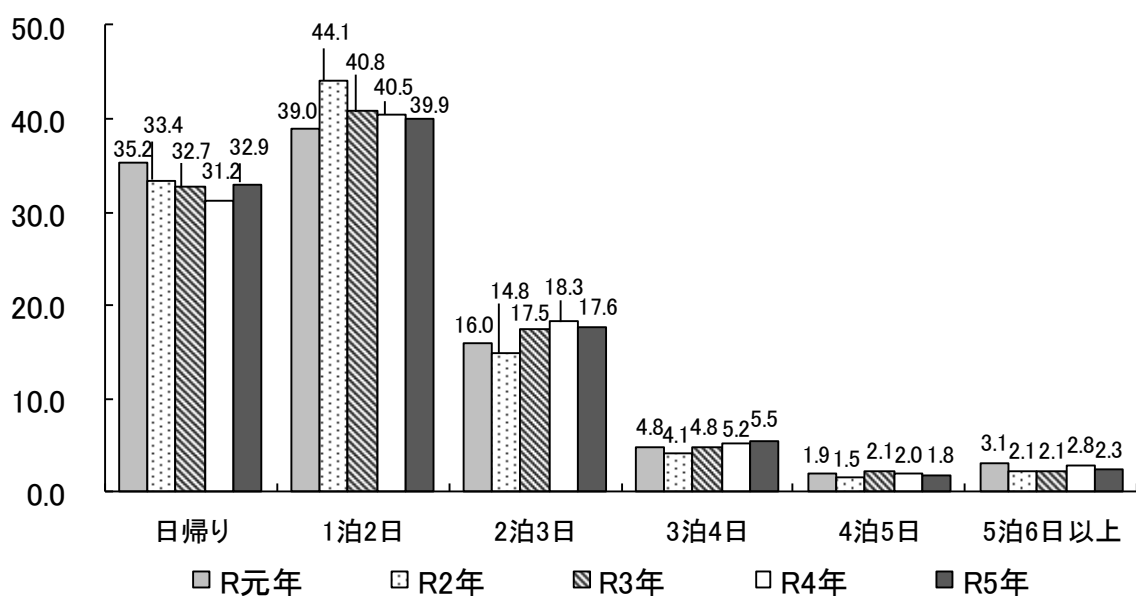
男女比は、男性が 64.1%、女性が 35.9%となっており、10 代で女性の割合が男性の割合を上回っており、その他の年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R 元年～R5 年]

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
R 元年	1,026	1,135	466	140	54	91
(n=2,912)	35.2	39.0	16.0	4.8	1.9	3.1
R2 年	888	1,172	393	108	39	56
(n=2,656)	33.4	44.1	14.8	4.1	1.5	2.1
R3 年	805	1,003	432	118	51	51
(n=2,460)	32.7	40.8	17.5	4.8	2.1	2.1
R4 年	934	1,211	549	155	61	83
(n=2,993)	31.2	40.5	18.3	5.2	2.0	2.8
R5 年	1,021	1,238	547	170	56	71
(n=3,103)	32.9	39.9	17.6	5.5	1.8	2.3

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [R 元年～R5 年]



日帰り客と宿泊客の割合をみると、「1泊2日」が39.9%と最も多く、次いで「日帰り」が32.9%、「2泊3日」が17.6%と続いている。

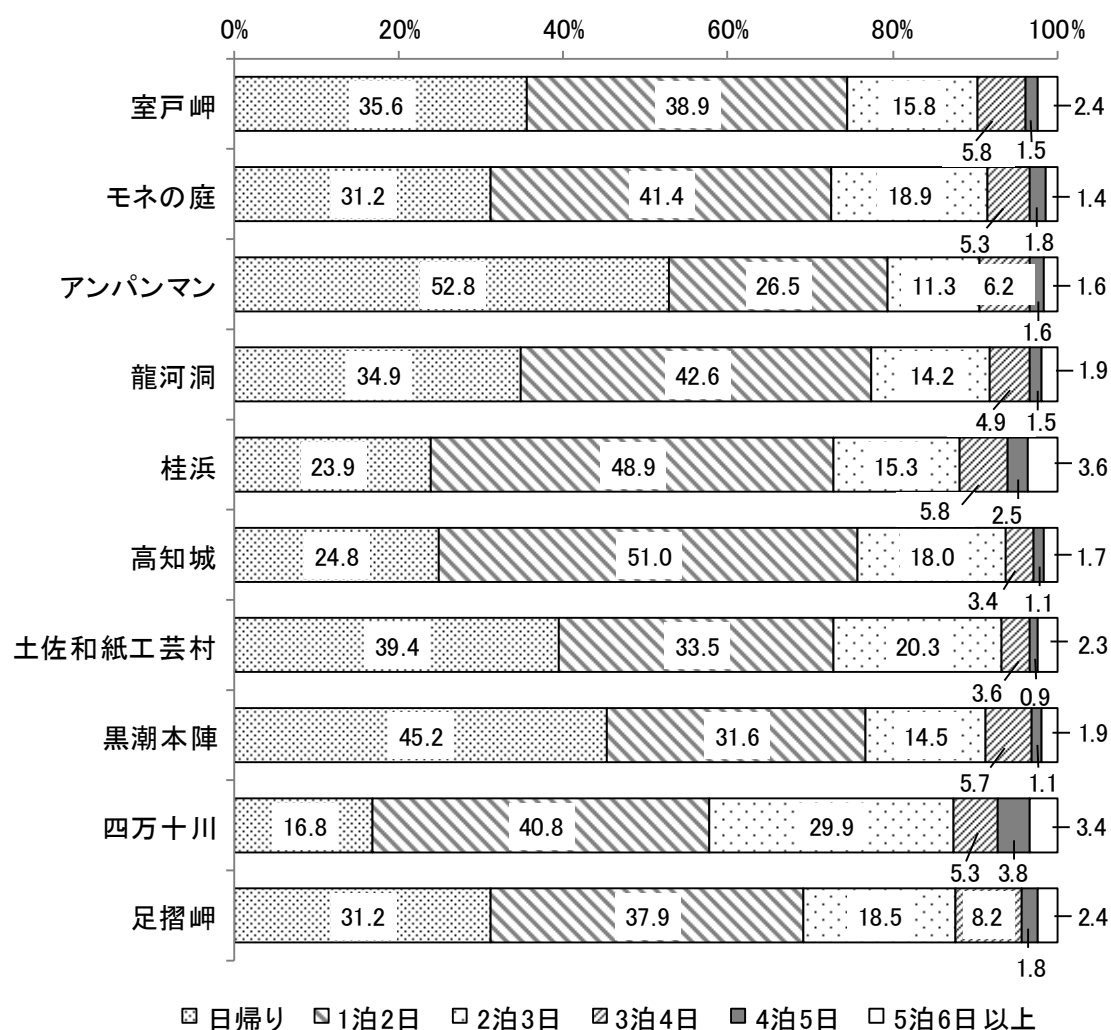
前年と比べ「日帰り」が1.7ポイント、「3泊4日」が0.3ポイント増加しており、「2泊3日」が0.7ポイント、「1泊2日」が0.6ポイントの減少などとなっている。令和元年度の調査から通してみると、「3泊4日」の割合は過去最大となっている。

(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R4 年、R5 年]

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	R4 年	192	253	100	42	21	29
		30.1	39.7	15.7	6.6	3.3	4.6
	R5 年	213	271	105	37	22	25
		31.6	40.3	15.6	5.5	3.3	3.7
春	R4 年	264	325	170	35	19	23
		31.6	38.9	20.3	4.2	2.3	2.7
	R5 年	279	322	139	51	15	15
		34.0	39.2	17.0	6.2	1.8	1.8
夏	R4 年	250	307	145	39	12	20
		32.3	39.7	18.8	5.0	1.6	2.6
	R5 年	274	308	153	49	15	20
		33.5	37.6	18.7	6.0	1.8	2.4
秋	R4 年	228	326	134	39	9	11
		30.5	43.7	17.9	5.2	1.2	1.5
	R5 年	255	337	150	33	4	11
		32.3	42.6	19.0	4.2	0.5	1.4

四季別データを前年と比べると、冬季は「日帰り」が1.5ポイント、「1泊2日」が0.6ポイントの増加、「3泊4日」が1.1ポイント、「5泊6日以上」が0.9ポイントの減少などとなっている。春季は「日帰り」が2.4ポイント、「3泊4日」が2.0ポイントの増加、「2泊3日」が3.3ポイント、「5泊6日以上」が0.9ポイントの減少などとなっている。夏季は「日帰り」が1.2ポイント、「3泊4日」が1.0ポイントの増加、「1泊2日」が2.1ポイント、「5泊6日以上」が0.2ポイントの減少などとなっている。秋季は「日帰り」が1.8ポイント、「2泊3日」が1.1ポイントの増加、「1泊2日」が1.1ポイント、「3泊4日」が1.0ポイントの減少などとなっている。

(図 3-4) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [R5 年]



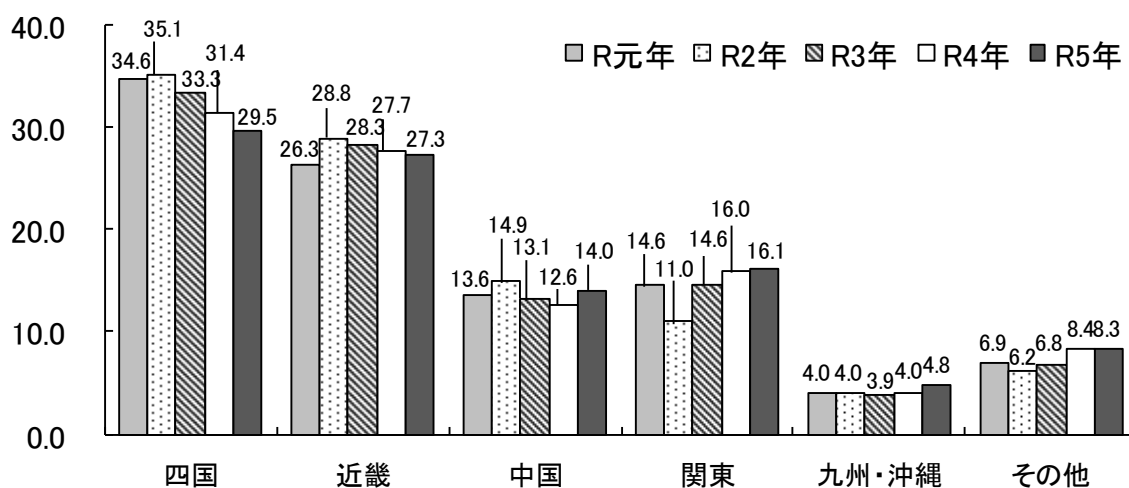
日帰り客と宿泊客の割合を調査地別にみると、「日帰り」の割合はアンパンマンミュージアムが52.8%と最も多く、次いで黒潮本陣が45.2%、土佐和紙工芸村が39.4%と続いている。また、「1泊2日」は高知城が51.0%と最も多く、次いで桂浜が48.9%、龍河洞が42.6%と続いている。そのほか、「2泊3日」は四万十川が29.9%、「3泊4日」は足摺岬8.2%、「4泊5日」は四万十川が3.8%、「5泊6日以上」は桂浜が3.6%と、それぞれ最も多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [R 元年～R5 年]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	その他
R 元年 (n=2,912)	1,008 34.6	767 26.3	396 13.6	424 14.6	117 4.0	200 6.9
R2 年 (n=2,656)	933 35.1	764 28.8	395 14.9	292 11.0	106 4.0	166 6.2
R3 年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	166 6.8
R4 年 (n=2,993)	939 31.4	829 27.7	377 12.6	479 16.0	119 4.0	250 8.4
R5 年 (n=3,103)	914 29.5	847 27.3	436 14.0	500 16.1	149 4.8	257 8.3

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [R 元年～R5 年]



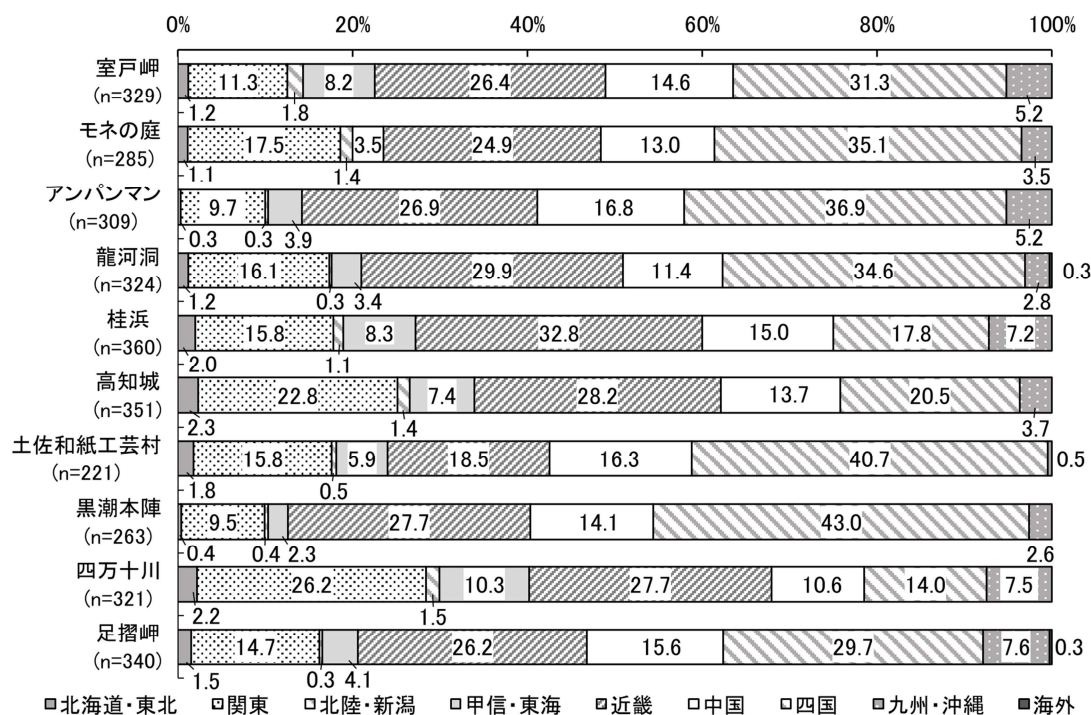
発地ブロック別入込割合をみると、四国が 29.5%と最も多く、次いで近畿が 27.3%、関東が 16.1%と続いている。

前年と比べると、中国が 1.4 ポイント、九州・沖縄が 0.8 ポイント、関東が 0.1 ポイント増加しており、四国が 1.9 ポイント、近畿が 0.4 ポイント、その他のブロックが 0.1 ポイント減少している。令和元年度の調査から通してみると、関東と九州・沖縄は過去最大となっている。その一方で、四国の割合は過去最小となっている。

(表 4-1 参考①) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [R元年~R5年 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	甲信・ 東海	北陸・ 新潟	東北	北海道	海外
R 元年	1,008	767	396	424	117	127	21	18	23	11
(n=2,912)	34.6	26.3	13.6	14.6	4.0	4.4	0.7	0.6	0.8	0.4
R2 年	933	764	395	292	106	121	23	11	10	1
(n=2,656)	35.1	28.8	14.9	11.0	4.0	4.5	0.9	0.4	0.4	0.0
R3 年	818	697	323	359	97	123	16	13	14	0
(n=2,460)	33.3	28.3	13.1	14.6	3.9	5.0	0.7	0.5	0.6	0.0
R4 年	939	829	377	479	119	193	21	17	17	2
(n=2,993)	31.4	27.7	12.6	16.0	4.0	6.5	0.7	0.6	0.6	0.1
R5 年	914	847	436	500	149	182	29	21	23	2
(n=3,103)	29.5	27.3	14.0	16.1	4.8	5.9	0.9	0.7	0.7	0.1

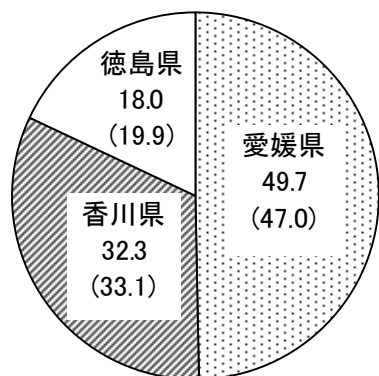
(表 4-1 参考②) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [R5 年]



調査地別に発地ブロック別入込割合をみると (P10 : 図 4-2、P12 : 表 4-3)、桂浜は近畿・四国、高知城と四万十川は近畿・関東、その他の7地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、黒潮本陣が84.8%と最も多く、次いでアンパンミュージアムが80.6%、龍河洞が75.9%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、四万十川が53.9%と最も多く、次いで高知城が51.0%、桂浜が48.6%と続いている。

(図 4-3) ブロック別・四国(%)

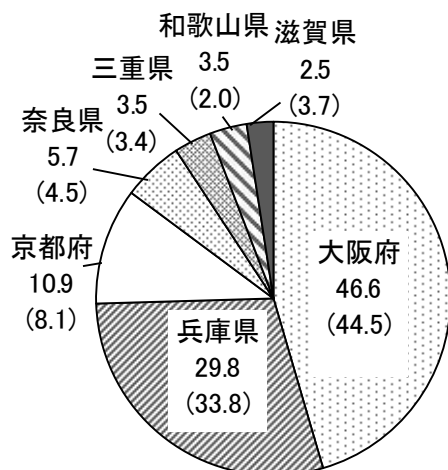


()内の数値は R4 年

前年と比べ、愛媛が 2.7 ポイント増加しており、徳島が 1.9 ポイント、香川が 0.8 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で一位、また黒潮本陣など 5 つの調査地において入込割合の一位となっている。香川は全体の三位、アンパンマンミュージアムなど 4 地点で二位となっている。徳島は全体の八位、室戸岬で一位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-4) ブロック別・近畿(%)

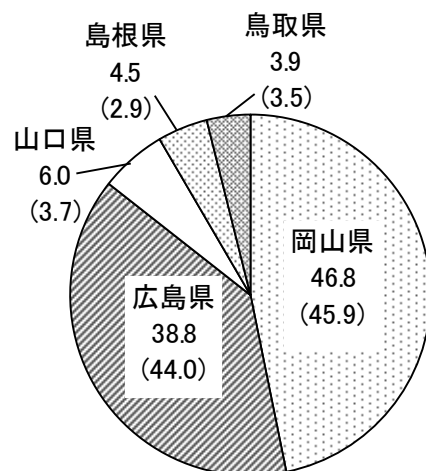


()内の数値は R4 年

前年と比べ、京都が 2.8 ポイント、大阪が 2.1 ポイント、和歌山が 1.5 ポイント、奈良が 1.2 ポイント、三重が 0.1 ポイント増加しており、兵庫が 4.0 ポイント、滋賀が 1.2 ポイント減少となっている。大阪と兵庫で 76.4%と、近畿ブロックの四分之三を占めている。

大阪は全体の入込割合で二位、桂浜など 4 地点で一位、足摺岬など 2 地点で二位となっており、兵庫は全体の四位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-5) ブロック別・中国(%)



()内の数値は R4 年

前年と比べ、山口が 2.3 ポイント、島根が 1.6 ポイント、岡山が 0.9 ポイント、鳥取が 0.4 ポイント増加しており、広島が 5.2 ポイント減少となっている。岡山と広島の 2 県で 85.6%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で五位、広島は全体の七位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

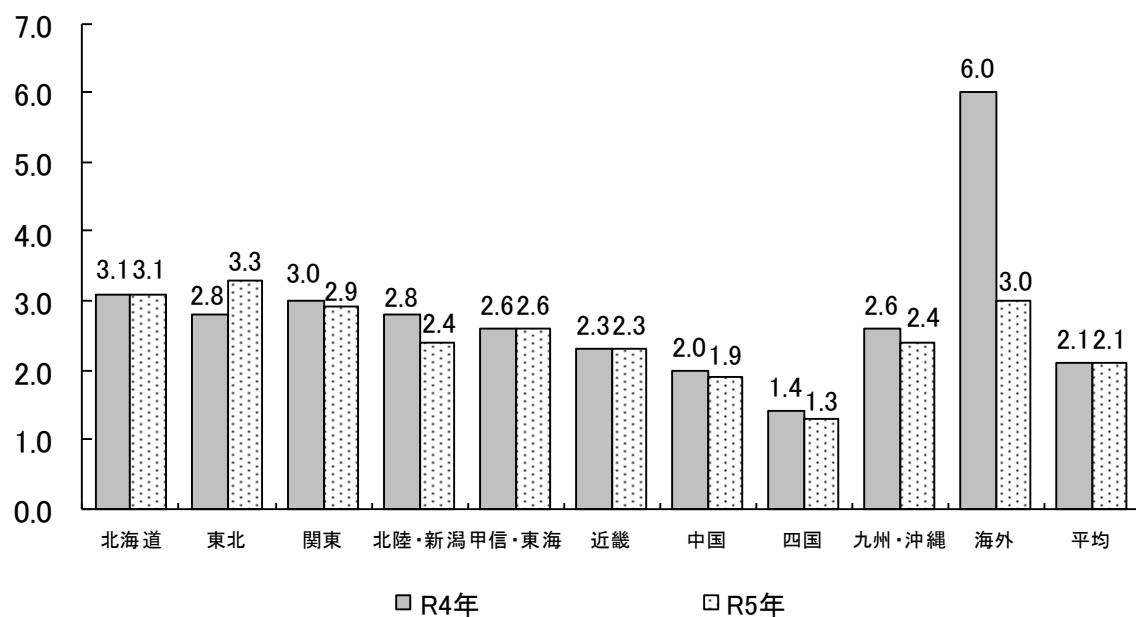
(表 4-1 参考③) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [R5 年]

		室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
県外合計		329	285	309	324	360	351	221	263	321	340	3,103	－
北海道・東北	北海道	1	1	1	4	5	3	1	0	5	2	23	
	青森県	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	4	
	岩手県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	宮城県	1	0	0	0	1	2	1	0	1	1	7	
	秋田県	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4	
	山形県	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	
	福島県	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3	
北海道・東北 計		4	3	1	4	7	8	4	1	7	5	44	－
関東	茨城県	0	0	2	2	1	3	4	2	3	2	19	
	栃木県	1	0	0	1	0	1	0	0	2	1	6	
	群馬県	1	0	1	3	1	4	0	0	1	2	13	
	埼玉県	4	7	5	3	12	9	3	3	8	4	58	
	千葉県	1	10	3	10	8	10	3	4	12	6	67	
	東京都	16	22	14	20	20	31	15	10	37	17	202	6
	神奈川県	14	11	5	13	15	22	10	6	21	18	135	9
関東 計		37	50	30	52	57	80	35	25	84	50	500	－
北陸・新潟	新潟県	2	2	0	0	2	2	0	1	1	0	10	
	富山県	2	0	0	0	2	1	0	0	0	0	5	
	石川県	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	4	
	福井県	2	1	1	1	0	2	1	0	2	0	10	
北陸・新潟 計		6	4	1	1	4	5	1	1	5	1	29	－
甲信・東海	山梨県	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3	
	長野県	4	0	1	3	4	1	0	1	4	1	19	
	岐阜県	3	2	1	1	5	3	1	0	3	5	24	
	静岡県	3	1	1	0	4	4	0	1	7	2	23	
	愛知県	17	7	9	6	17	17	12	4	18	6	113	10
甲信・東海 計		27	10	12	11	30	26	13	6	33	14	182	－
近畿	三重県	3	3	1	2	6	6	2	1	3	2	29	
	滋賀県	3	1	1	0	5	2	4	1	2	2	21	
	京都府	12	8	13	9	13	8	1	11	9	6	90	11
	大阪府	33	24	36	52	57	46	16	33	44	44	385	2
	兵庫県	28	27	21	26	28	28	13	24	23	28	246	4
	奈良県	4	4	5	7	5	9	5	1	3	4	47	
	和歌山県	4	4	6	1	4	0	0	2	5	3	29	
近畿 計		87	71	83	97	118	99	41	73	89	89	847	－
中国	鳥取県	2	4	3	0	2	1	2	0	1	2	17	
	島根県	4	3	1	5	4	1	0	0	0	2	20	
	岡山県	17	21	24	20	24	25	15	21	17	20	204	5
	広島県	22	7	21	11	21	20	19	14	10	24	169	7
	山口県	3	2	3	1	3	1	0	2	6	5	26	
中国 計		48	37	52	37	54	48	36	37	34	53	436	－
四国	徳島県	49	25	17	26	5	14	6	10	3	10	165	8
	香川県	29	29	37	40	25	24	24	37	18	32	295	3
	愛媛県	25	46	60	46	34	34	60	66	24	59	454	1
四国 計		103	100	114	112	64	72	90	113	45	101	914	－
九州・沖縄	福岡県	10	5	10	3	10	5	0	3	15	12	73	
	佐賀県	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	6	
	長崎県	2	1	0	1	1	0	0	0	1	3	9	
	熊本県	1	0	0	1	5	1	1	1	3	4	17	
	大分県	2	3	2	1	3	4	0	1	2	4	22	
	宮崎県	0	1	1	1	2	1	0	0	1	1	8	
	鹿児島県	0	0	3	0	2	0	0	1	0	1	7	
沖縄県	1	0	0	1	3	1	0	0	1	0	7		
九州・沖縄 計		17	10	16	9	26	13	1	7	24	26	149	－
海外		0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	－
高知県		71	115	91	76	40	49	179	137	79	60	897	－

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [R4 年、R5 年]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ、増減なしの 2.1 日となっている。

発地ブロック別にみると、東北が 3.3 日で最も多く、次いで北海道が 3.1 日、関東が 2.9 日と続いている。前年と比べ、東北が増加しており、甲信・東海や近畿などの 3 地点は横ばい、北陸・新潟や九州・沖縄などの 5 地点は減少となっている。

5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔R 元年～R5 年〕

	R 元年	R2 年	R3 年	R4 年	R5 年
10 代	2.1	2.1	2.1	2.6	2.3
20 代	2.2	2.0	2.2	2.2	2.2
30 代	2.1	2.1	2.2	2.3	2.1
40 代	2.3	2.1	2.1	2.1	2.1
50 代	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0
60 代以上	2.0	2.0	2.0	2.2	2.1
全 体	2.1	2.0	2.1	2.1	2.1

年代別の県内旅行日数は、10 代が 2.3 日、20 代が 2.2 日、30 代、40 代、60 代以上が 2.1 日、50 代が 2.0 日となっている。

前年と比べ、増加している年代はなかった。20 代と 40 代は横ばい、その他の年代は減少となっている。

6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [R3 年～R5 年]

		自然見物 ・町歩き	休養 ・慰安	イベント	アウトド ア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんと なく	ワーケー ション	帰省 ・仕事	その他
1 人	R3 年	17.0	1.8	4.5	2.5	0.4	11.2	8.0	0.0	15.8	19.6	0.0	17.0	2.2
	R4 年	23.3	0.5	1.3	5.8	0.7	7.8	5.3	1.3	19.5	20.8	0.2	11.5	2.0
	R5 年	22.1	2.3	2.3	3.9	0.7	11.7	6.2	0.9	14.7	17.0	0.0	17.0	1.2
家族	R3 年	25.5	4.9	0.6	4.7	0.4	20.0	4.3	2.9	24.0	3.5	0.0	8.6	0.6
	R4 年	24.4	3.0	0.7	3.6	0.6	19.4	3.5	2.3	25.9	4.3	0.0	11.5	0.8
	R5 年	22.0	3.7	2.2	2.6	0.2	19.7	3.7	2.2	27.8	3.7	0.0	11.1	1.1
友人 知人	R3 年	22.7	1.8	0.8	4.8	0.3	31.6	2.0	0.3	16.6	13.0	0.0	5.6	0.5
	R4 年	24.9	2.1	1.1	6.0	1.1	27.5	1.4	0.9	17.2	11.9	0.0	5.0	0.9
	R5 年	26.5	3.3	1.6	2.8	0.5	32.3	1.9	0.2	15.3	9.3	0.0	4.9	1.4
団体	R3 年	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	R4 年	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	30.0	10.0
	R5 年	5.6	16.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	38.9	0.0	0.0	27.7	5.6
その他	R3 年	15.0	0.0	0.0	10.0	0.0	15.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	40.0	10.0
	R4 年	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	46.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7
	R5 年	38.9	0.0	0.0	0.0	5.6	22.2	0.0	0.0	5.6	11.1	0.0	16.6	0.0
全体	R3 年	23.4	3.9	1.3	4.4	0.4	20.2	4.6	1.9	21.1	7.9	0.0	10.0	0.9
	R4 年	24.3	2.5	0.8	4.3	0.7	19.1	3.4	2.0	23.6	7.5	0.1	10.7	1.0
	R5 年	22.6	3.5	2.1	2.8	0.3	20.3	3.8	1.7	24.2	6.4	0.0	11.2	1.1

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡・観光施設」が前年から 0.6 ポイント増加の 24.2%で最も多く、次いで「自然見物・町歩き」が 1.7 ポイント減少の 22.6%、「食べ物」が 1.2 ポイント増加の 20.3%と続いている。

令和 3 年度の調査から通してみると、「イベント」、「食べ物」、「名所旧跡・観光施設」、「帰省・仕事」、「その他」は過去最大、「自然見物・町歩き」、「アウトドア」、「スポーツ」、「買い物」「なんとなく」は過去最小となっている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「帰省・仕事」が 5.5 ポイント増加、「名所旧跡・観光施設」が 4.8 ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「名所旧跡・観光施設」が 1.9 ポイント増加、「自然見物・町歩き」が 2.4 ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「食べ物」が 4.8 ポイント増加、「アウトドア」が 3.2 ポイント減少、“団体”では、「名所旧跡・観光施設」が 18.9 ポイント増加、「アウトドア」が 10.0 ポイント減少となっている。

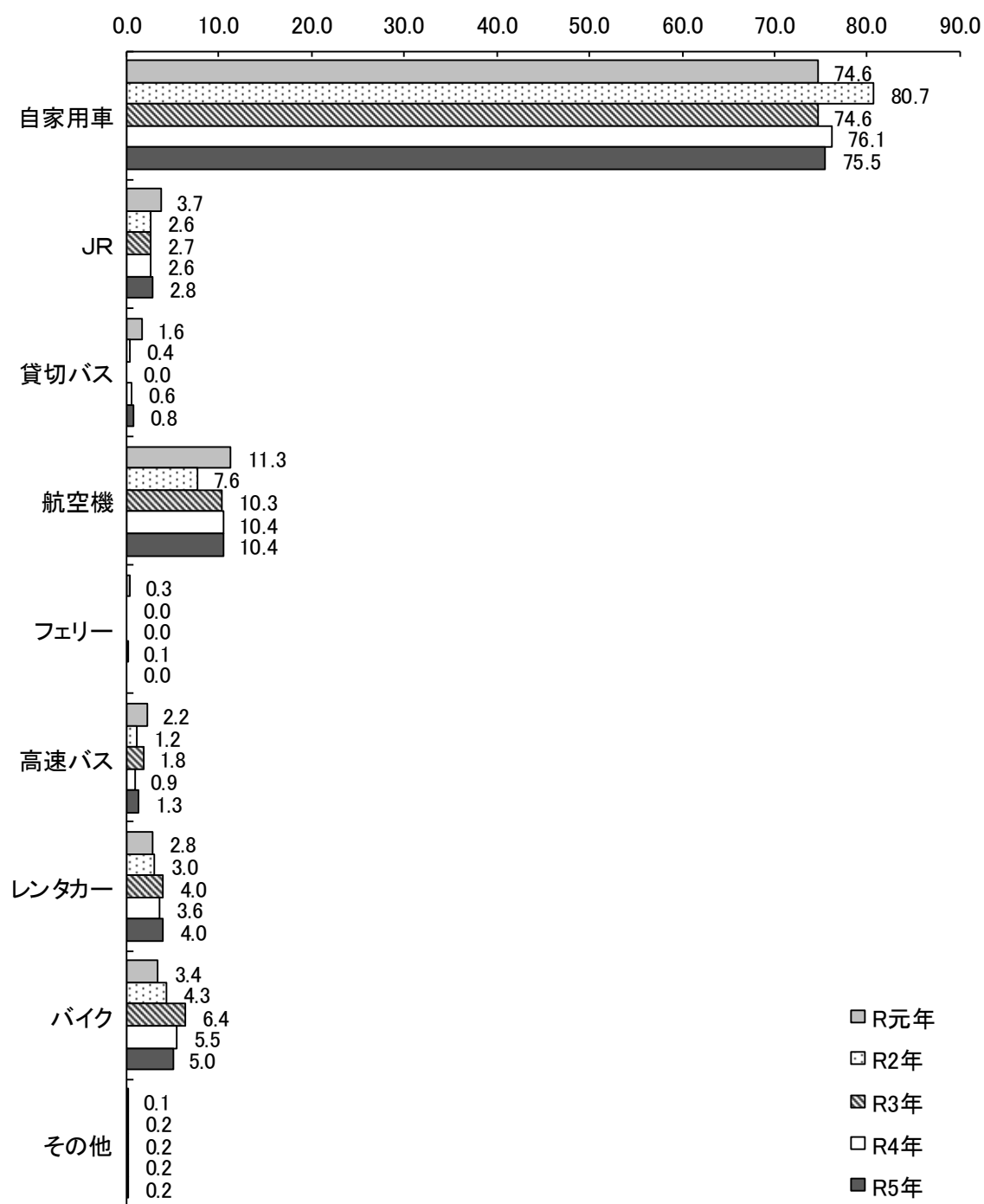
7 入込利用交通機関割合

(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [R 元年～R5 年]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
R 元年	2,173	106	46	330	8	66	82	98	3
(n=2,912)	74.6	3.7	1.6	11.3	0.3	2.2	2.8	3.4	0.1
R2 年	2,144	70	9	202	1	31	80	115	4
(n=2,656)	80.7	2.6	0.4	7.6	0.0	1.2	3.0	4.3	0.2
R3 年	1,834	67	1	254	0	43	98	157	6
(n=2,460)	74.6	2.7	0.0	10.3	0.0	1.8	4.0	6.4	0.2
R4 年	2,277	78	19	312	2	27	109	164	5
(n=2,993)	76.1	2.6	0.6	10.4	0.1	0.9	3.6	5.5	0.2
R5 年	2,342	87	24	322	0	41	126	155	6
(n=3,103)	75.5	2.8	0.8	10.4	0.0	1.3	4.0	5.0	0.2

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から 0.6 ポイント減少の 75.5%で最も多く、次いで「航空機」が横ばいの 10.4%、「バイク」が 0.5 ポイント減少の 5.0%と続いている。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [R 元年～R5 年]



8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [R4 年、R5 年]

		1 人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	R4 年 (n=28)	10.7	67.9	21.4	0.0	0.0
	R5 年 (n=29)	6.9	75.9	17.2	0.0	0.0
20 代	R4 年 (n=350)	17.1	33.7	47.7	0.9	0.6
	R5 年 (n=352)	14.5	40.0	44.9	0.3	0.3
30 代	R4 年 (n=540)	12.2	71.5	15.7	0.2	0.4
	R5 年 (n=528)	13.1	67.6	18.2	0.7	0.4
40 代	R4 年 (n=706)	11.5	78.9	8.6	0.3	0.7
	R5 年 (n=653)	12.3	77.6	8.7	0.5	0.9
50 代	R4 年 (n=733)	13.2	76.3	9.6	0.5	0.4
	R5 年 (n=805)	17.0	74.2	7.8	0.3	0.7
60 代以上	R4 年 (n=636)	14.5	77.8	7.5	0.0	0.2
	R5 年 (n=736)	13.1	78.5	6.9	1.1	0.4
全 体	R4 年 (n=2,993)	13.3	71.3	14.6	0.3	0.5
	R5 年 (n=3,103)	14.0	71.0	13.8	0.6	0.6

旅行形態割合をみると、「家族」が 71.0% で最も多く、次いで「1 人」が 14.0%、「友人知人」が 13.8%、「団体」と「その他」が 0.6% と続いている。

前年と比べ、「1 人」が 0.7 ポイント、「団体」が 0.3 ポイント、「その他」が 0.1 ポイント増加しており、「友人知人」が 0.8 ポイント、「家族」が 0.3 ポイント減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20 代を除くすべての年代で「家族」が最も多く、20 代は「友人知人」が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [R4 年、R5 年]

		1 人	2～3 人	4～5 人	6～10 人	11 人以上
10 代	R4 年 (n=28)	10.7	50.0	28.6	10.7	0.0
	R5 年 (n=29)	6.9	34.5	48.3	6.9	3.4
20 代	R4 年 (n=350)	17.1	70.0	10.6	2.0	0.3
	R5 年 (n=352)	14.5	70.2	12.5	2.0	0.8
30 代	R4 年 (n=540)	12.2	58.0	26.3	3.5	0.0
	R5 年 (n=528)	13.1	59.4	23.3	4.0	0.2
40 代	R4 年 (n=706)	11.5	57.7	27.9	2.8	0.1
	R5 年 (n=653)	12.3	57.9	24.8	4.0	1.0
50 代	R4 年 (n=733)	13.2	71.6	13.0	1.9	0.3
	R5 年 (n=805)	17.0	68.3	13.2	1.2	0.3
60 代以上	R4 年 (n=636)	14.5	71.4	10.4	3.4	0.3
	R5 年 (n=736)	13.1	71.3	10.5	4.3	0.8
全 体	R4 年 (n=2,993)	13.3	65.4	18.2	2.9	0.2
	R5 年 (n=3,103)	14.0	65.2	17.0	3.2	0.6

同行者数割合をみると、「2～3 人」が 65.2%で最も多く、次いで「4～5 人」が 17.0%、「1 人」が 14.0%、「6～10 人」が 3.2%、「11 人以上」が 0.6%と続いている。

前年と比べ、「1 人」が 0.7 ポイント、「11 人以上」が 0.4 ポイント、「6～10 人」が 0.3 ポイント増加しており、「4～5 人」が 1.2 ポイント、「2～3 人」が 0.2 ポイント減少となっている。

年代別にみると、10 代を除くすべての年代で「2～3 人」が最も多く、10 代は「4～5 人」が最も多くなっている。

(表 8-3) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [R5 年]

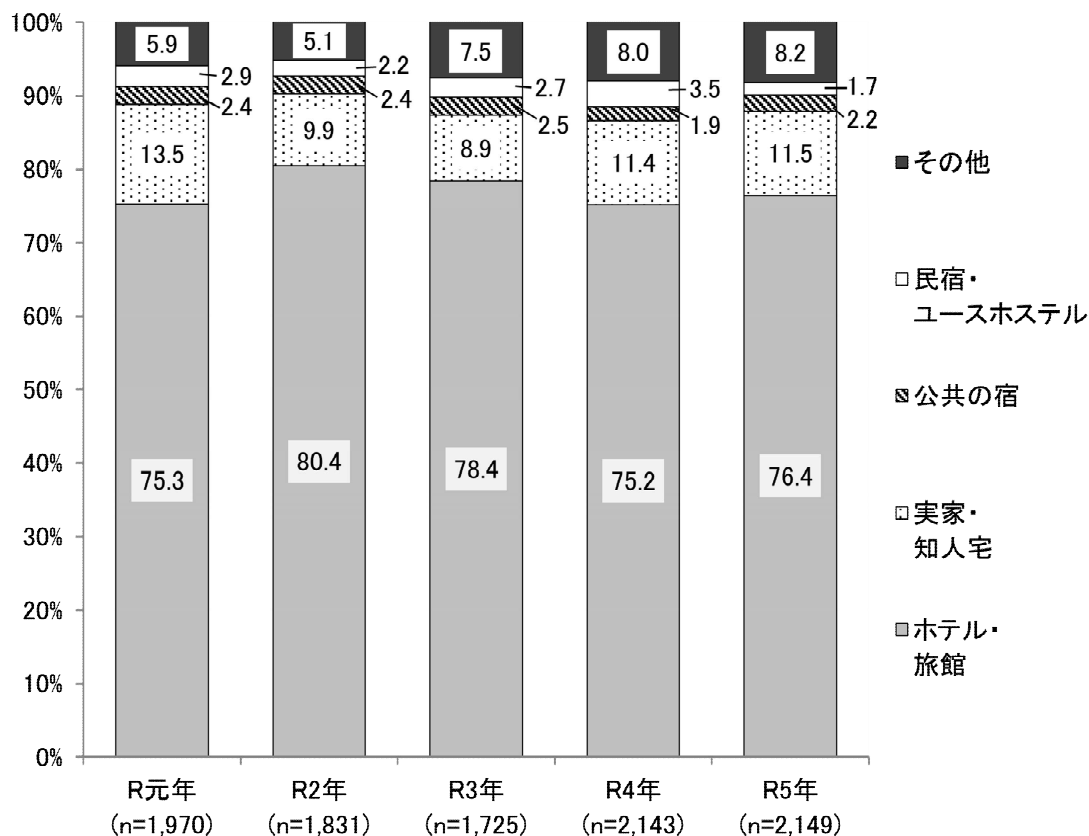
	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上	2～3人	4～5人	6～10人	11人以上
10 代	2	7	13	2		3	1		1								
20 代	51	110	27	3	1	136	17	4	1				1	1			
30 代	69	226	111	19	1	83	12	1		3		1		2			
40 代	80	327	156	21	3	47	5	4	1				3	4	1	1	
50 代	137	499	90	7	1	46	15	2			1		1	5		1	
60 代以上	96	486	67	25		35	9	6	1	2		1	5	2	1		

年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると、10代と20代を除くすべての年代は「2～3人の家族」が最も多く、10代は「4～5人の家族」、20代は「2～3人の友人知人」が最も多くなっている。

9 宿泊施設割合

9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [R 元年～R5 年間]



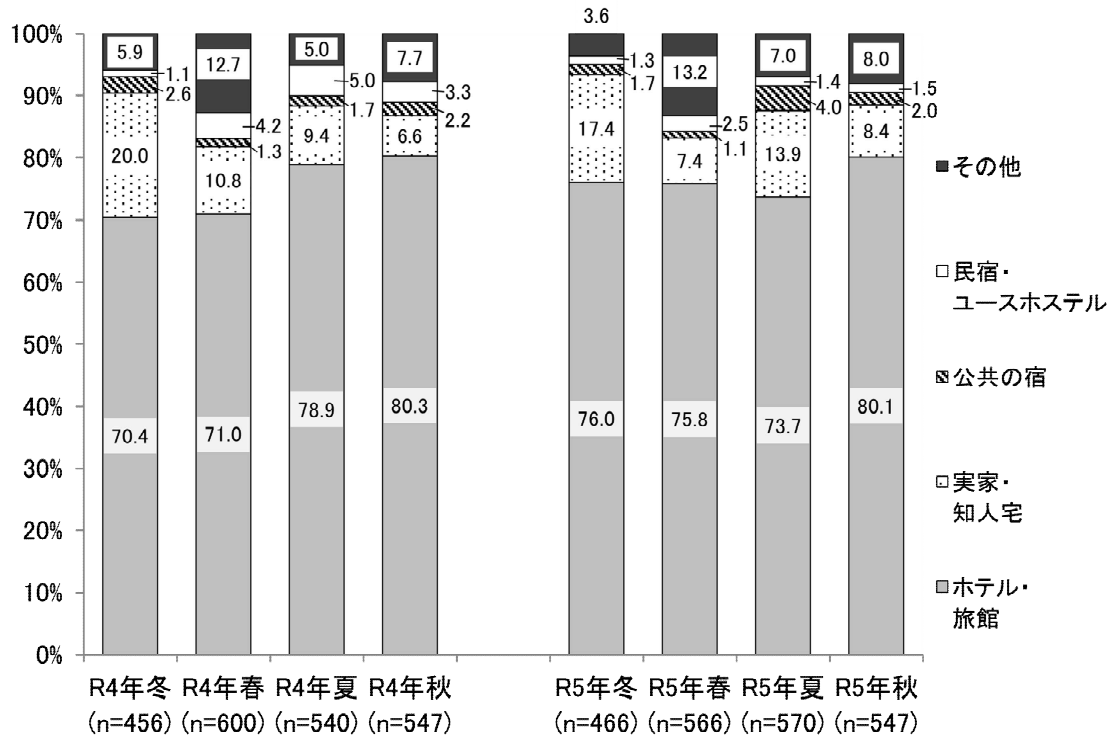
県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が76.4%で最も多く、次いで「実家・知人宅」が11.5%、「その他」が8.2%、「公共の宿」が2.2%、「民宿・ユースホステル」が1.7%と続いている。

前年と比べ、「ホテル・旅館」が1.2ポイント、「公共の宿」が0.3ポイント、「その他」が0.2ポイント、「実家・知人宅」が0.1ポイント増加し、「民宿・ユースホステル」が1.8ポイント減少している。

令和元年度の調査から通してみると、「その他」は過去最大、「民宿・ユースホステル」は過去最小となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [R4 年、R5 年]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、夏季と秋季の調査時期で「ホテル・旅館」の割合が減少となっている。

前年と比べ、1.0 ポイントを超えて変動している項目をみると、冬季は「ホテル・旅館」が 5.6 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 2.6 ポイント、「その他」が 2.3 ポイント減少となっている。

春季は「ホテル・旅館」が 4.8 ポイント増加し、「実家・知人宅」が 3.4 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 1.7 ポイント減少となっている。

夏季は「実家・知人宅」が 4.5 ポイント、「公共の宿」が 2.3 ポイント、「その他」が 2.0 ポイント増加し、「ホテル・旅館」が 5.2 ポイント、「民宿・ユースホステル」が 3.6 ポイント減少となっている。

秋季は「実家・知人宅」が 1.8 ポイント増加し、「民宿・ユースホステル」が 1.8 ポイント減少となっている。

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [R4 年、R5 年]

		ホテル・ 旅館	実家・ 知人宅	公共の宿	民宿・ ユースホス テル	その他
10 代	R4 年 (n=22)	63.6	31.8	0.0	0.0	4.6
	R5 年 (n=18)	55.5	38.9	0.0	0.0	5.6
20 代	R4 年 (n=280)	76.8	11.1	0.7	5.3	6.1
	R5 年 (n=266)	72.5	17.7	2.3	1.9	5.6
30 代	R4 年 (n=396)	71.4	15.7	2.3	3.0	7.6
	R5 年 (n=358)	75.7	16.5	1.7	1.4	4.7
40 代	R4 年 (n=476)	72.9	13.5	1.9	2.5	9.2
	R5 年 (n=441)	75.3	11.6	2.0	2.7	8.4
50 代	R4 年 (n=515)	74.6	10.1	2.1	3.7	9.5
	R5 年 (n=553)	78.3	7.9	1.8	1.3	10.7
60 代以上	R4 年 (n=454)	81.3	6.0	2.2	3.7	6.8
	R5 年 (n=513)	78.3	7.8	3.3	1.4	9.2

年代別利用宿泊施設割合をみると、すべての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

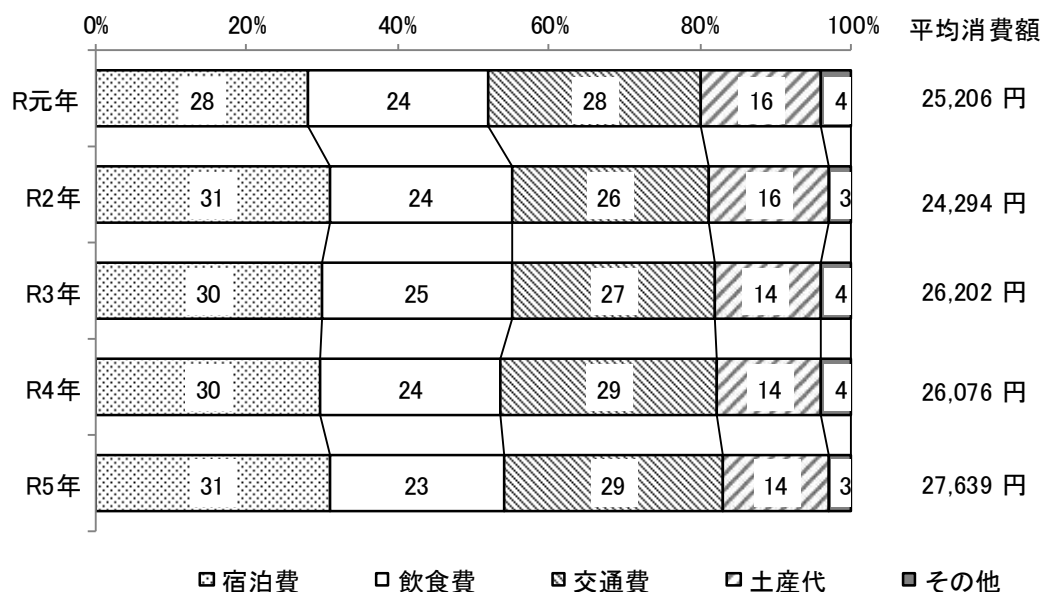
前年と比べ、5.0 ポイントを超えて増加している項目は、10 代と 20 代の「実家・知人宅」となっている。その一方で減少している項目は、10 代の「ホテル・旅館」となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R 元年～R5 年]



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 1,563 円増加の 27,639 円となっている。費目別でみると、「宿泊費」が 31%と最も多く、次いで「交通費」が 29%、「飲食費」が 23%と続いている。

(図 10-1 参考①) 県内平均消費額費目別内訳(円) [R3 年～R5 年]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計
R3 年	7,996	6,465	7,134	3,686	921	26,202
R4 年	7,780	6,176	7,478	3,731	911	26,076
R5 年	8,497	6,340	7,890	3,982	930	27,639

費目別の平均消費額を前年と比べると、「宿泊費」が 717 円、「交通費」が 412 円、「土産代」が 251 円、「飲食費」が 164 円、「その他」が 19 円増加となっている。

令和 3 年度の調査から通してみると、飲食費を除くすべての費目で過去最大となっている。

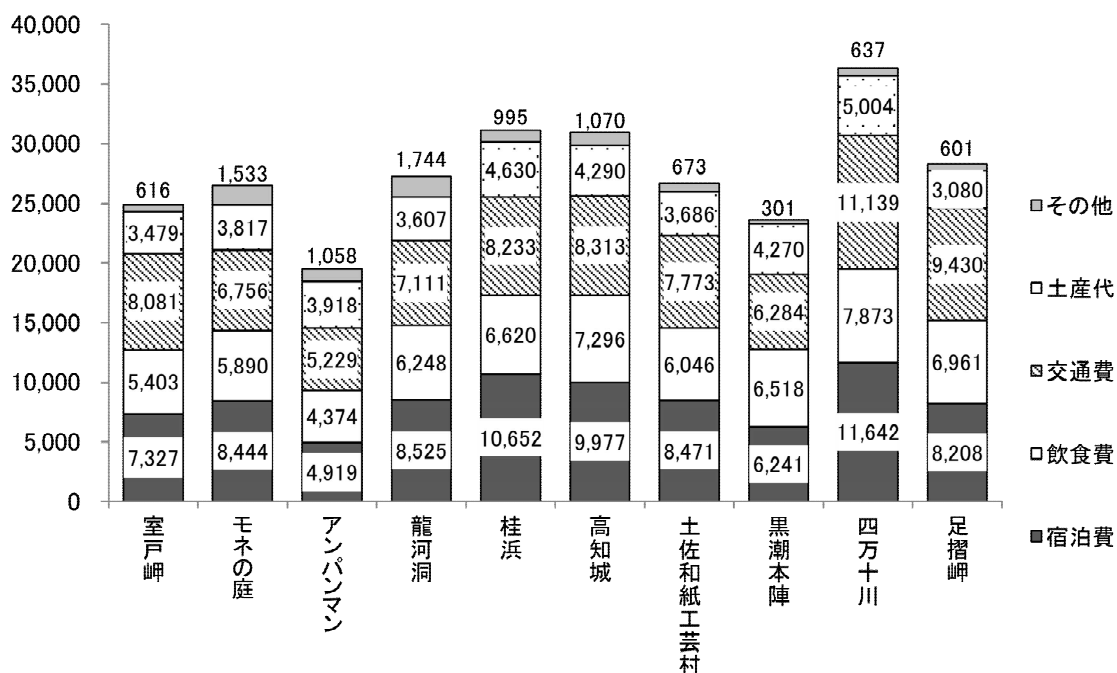
(図 10-1 参考②) 調査地別県内平均消費額(円) [R4 年、R5 年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
R4 年	22,502	24,919	18,485	27,233	28,383	31,691	25,239	22,726	32,356	24,767
R5 年	24,906	26,440	19,498	27,235	31,130	30,946	26,649	23,614	36,295	28,280
前年との差	2,404	1,521	1,013	2	2,747	▲ 745	1,410	888	3,939	3,513

調査地別の年間平均消費額をみると、「四万十川」が 36,295 円で最も高く、次いで、「桂浜」が 31,130 円、「高知城」が 30,946 円と続いており、「アンパンマンミュージアム」が 19,498 円で最も低くなっている。

前年と比べ、「四万十川」が 3,939 円、「足摺岬」が 3,513 円の増加となっており、その一方で「高知城」が 745 円の減少となっている。

(図 10-1 参考③) 調査地別県内平均消費額費目別内訳(円) [R5 年]



調査地別に費目別の平均消費額をみると、黒潮本陣では「飲食費」が、室戸岬、アンパンマンミュージアム、足摺岬では「交通費」が、その他の調査地では「宿泊費」が最も多くなっている。

(参考)県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	R5			R4			R3		R2	
	R5-R4 (対R4増減率)			R4-R3 (対R3増減率)			R3-R2 (対R2増減率)		R2-R1 (対R元増減率)	
県外観光客総数(人)	4,722,017		1,035,190	38.7%	3,707,314		1,035,190	38.7%	2,672,124	
	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外
	4,645,678	76,339	940,961	25.4%	3,704,717	2,597	1,034,062	38.7%	2,667,823	1,720,525
県外観光客一人当たり消費額 (円)	27,639		1,563	6.0%	26,076		126	▲ 0.5%	24,294	
<内訳> 宿泊費	8,497		717	9.2%	7,780		216	▲ 2.7%	7,455	
飲食費	6,340		164	2.7%	6,176		289	▲ 4.5%	5,960	
交通費	7,890		412	5.5%	7,478		344	4.8%	6,245	
土 産	3,982		251	6.7%	3,731		45	1.2%	3,780	
その他	930		19	2.1%	911		10	▲ 1.1%	854	
県外観光客の総消費額(百万 円)	128,402		31,798	32.9%	96,604		26,627	38.1%	64,793	
	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船 (乗船客数)	客船除く総消費額 (A) × (B)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外
	673	643	2143.3%	30	30	14	87.5%	8	8	8
生産誘発効果(百万円)	129,075		32,440	33.6%	96,634		26,641	38.1%	64,801	
生産誘発効果(百万円)	192,317		144,127		104,421		96,387		1,49	
生産誘発倍率(倍)	1.49		1.49		1.49		1.49		1.49	

10.1.2 四季別

(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R4 年、R5 年]

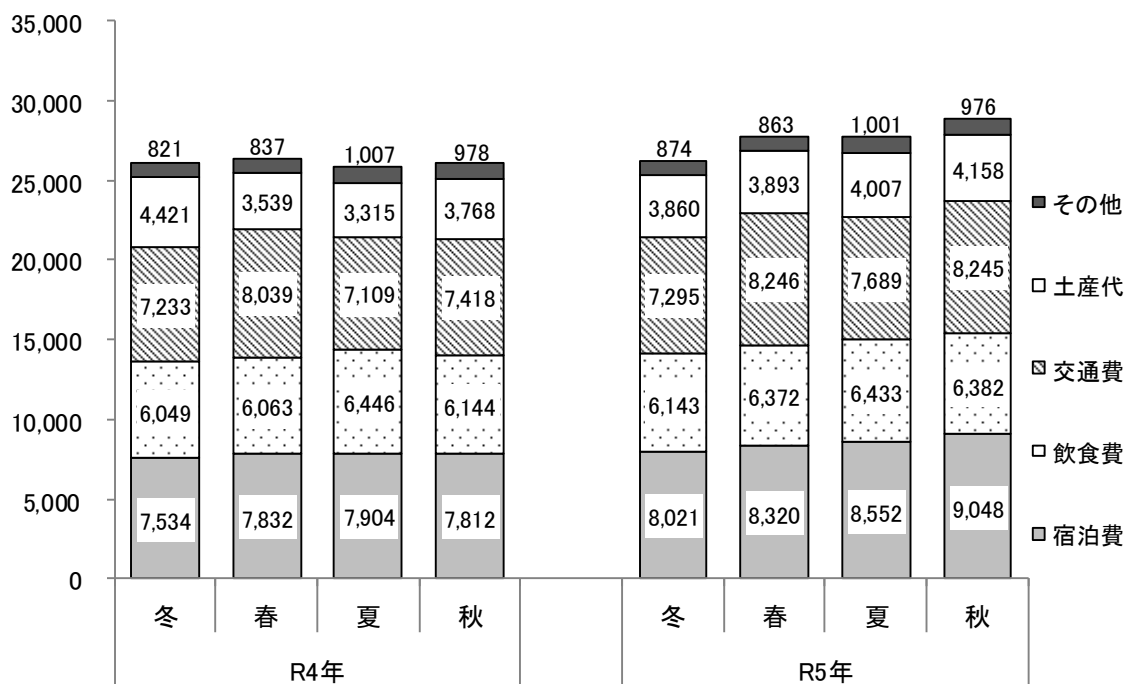
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	R4 年	29	23	28	17	3	26,058 円	135 円
	R5 年	30	24	28	14	4	26,193 円	
春	R4 年	30	23	31	13	3	26,310 円	1,384 円
	R5 年	30	23	30	14	3	27,694 円	
夏	R4 年	31	25	27	13	4	25,781 円	1,901 円
	R5 年	31	23	28	15	3	27,682 円	
秋	R4 年	30	24	28	14	4	26,120 円	2,689 円
	R5 年	31	23	28	15	3	28,809 円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、秋季が 2,689 円、夏季が 1,901 円、春季が 1,384 円、冬季が 135 円の増加となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は冬季と秋季で増加、春季と夏季は横ばいとなっている。「飲食費」は冬季で増加、春季は横ばい、夏季と秋季は減少となっている。

「交通費」は夏季で増加、冬季と秋季は横ばい、春季は減少となっている。「土産代」は冬季を除くすべての時季で増加となっている。「その他」は冬季で増加、春季は横ばい、夏季と秋季は減少となっている。

(図 10-3) 四季別県内平均消費額費目別内訳(円) [R4 年、R5 年]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が秋季の 9,048 円、「飲食費」が夏季の 6,433 円、「交通費」が春季の 8,246 円、「土産代」が秋季の 4,158 円、「その他」が夏季の 1,001 円となっている。

前年と比べ増加した時季と費目は、冬季の「土産代」を除くすべての費目、春季のすべての費目、夏季の「宿泊費」、「交通費」、「土産代」、秋季の「その他」を除くすべての費目となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R4 年、R5 年]

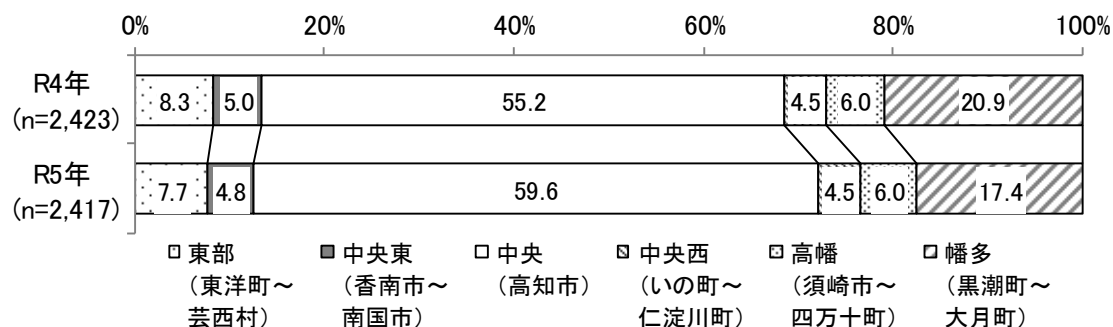
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	R4 年	29	19	28	19	5	26,499 円	▲ 3,342 円
	R5 年	32	22	27	15	4	23,157 円	
20 代	R4 年	29	26	31	11	3	28,151 円	▲ 556 円
	R5 年	29	25	31	12	3	27,595 円	
30 代	R4 年	28	25	30	13	4	25,609 円	1,117 円
	R5 年	31	22	29	14	4	26,726 円	
40 代	R4 年	28	25	27	16	4	23,544 円	3,938 円
	R5 年	30	24	27	15	4	27,482 円	
50 代	R4 年	30	23	29	15	3	25,854 円	1,305 円
	R5 年	30	23	29	15	3	27,159 円	
60 代以上	R4 年	33	21	28	15	3	28,524 円	696 円
	R5 年	33	21	28	15	3	29,220 円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると、40 代が 3,938 円、50 代が 1,305 円、30 代が 1,117 円、60 代以上が 696 円の増加となっており、10 代が 3,342 円、20 代が 556 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は 10 代、30 代、40 代で増加、その他の年代は横ばいとなっている。「飲食費」は 10 代で増加、50 代と 60 代以上は横ばい、その他の年代は減少となっている。「交通費」は 20 代と 40 代以上で横ばい、10 代と 30 代は減少となっている。「土産代」は 20 代と 30 代で増加、50 代と 60 代以上は横ばい、その他の年代は減少となっている。「その他」は 20 代以上で横ばい、10 代は減少となっている。

11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [R4 年、R5 年]



県内での宿泊地域をみると、「中央」が59.6%で最も高く、次いで「幡多」が17.4%、「東部」が7.7%、「高幡」が6.0%、「中央東」が4.8%、「中央西」が4.5%と続いている。

前年と比べ、「中央」が4.4ポイントの増加、「中央西」と「高幡」が横ばい、「幡多」が3.5ポイント、「東部」が0.6ポイント、「中央東」が0.2ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [R5 年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	22.8	9.6	49.8	3.5	5.8	8.5
モネの庭	18.6	5.2	61.9	4.8	2.2	7.3
アンパンマン	5.3	15.8	66.4	5.3	0.6	6.6
龍河洞	9.9	7.9	68.6	3.7	3.3	6.6
桂浜	6.3	3.0	75.8	3.3	3.3	8.3
高知城	3.2	3.6	83.3	2.8	4.3	2.8
土佐和紙工芸村	3.1	0.6	61.6	18.9	7.9	7.9
黒潮本陣	0.6	2.4	41.2	5.5	23.6	26.7
四万十川	2.8	1.9	44.6	2.5	6.5	41.7
足摺岬	3.0	2.0	41.8	2.4	7.0	43.8
全体	7.7	4.8	59.6	4.5	6.0	17.4

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると、龍河洞は「中央」「東部」の順で、桂浜と黒潮本陣は「中央」「幡多」の順で、高知城は「中央」「高幡」の順で、足摺岬は「幡多」「中央」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [R5 年]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	70.0	9.6	5.0	0.9	14.5
モネの庭	83.7	6.5	5.6	1.4	2.8
アンパンマン	66.6	26.7	0.0	2.0	4.7
龍河洞	83.7	12.1	1.4	0.5	2.3
桂浜	79.0	13.2	0.4	1.4	6.0
高知城	90.6	7.5	0.4	0.4	1.1
土佐和紙工芸村	74.7	8.9	2.7	2.1	11.6
黒潮本陣	58.7	9.0	11.0	4.5	16.8
四万十川	71.5	17.4	1.1	1.7	8.3
足摺岬	68.3	9.5	0.4	3.2	18.6
全体	75.7	11.8	2.4	1.7	8.4

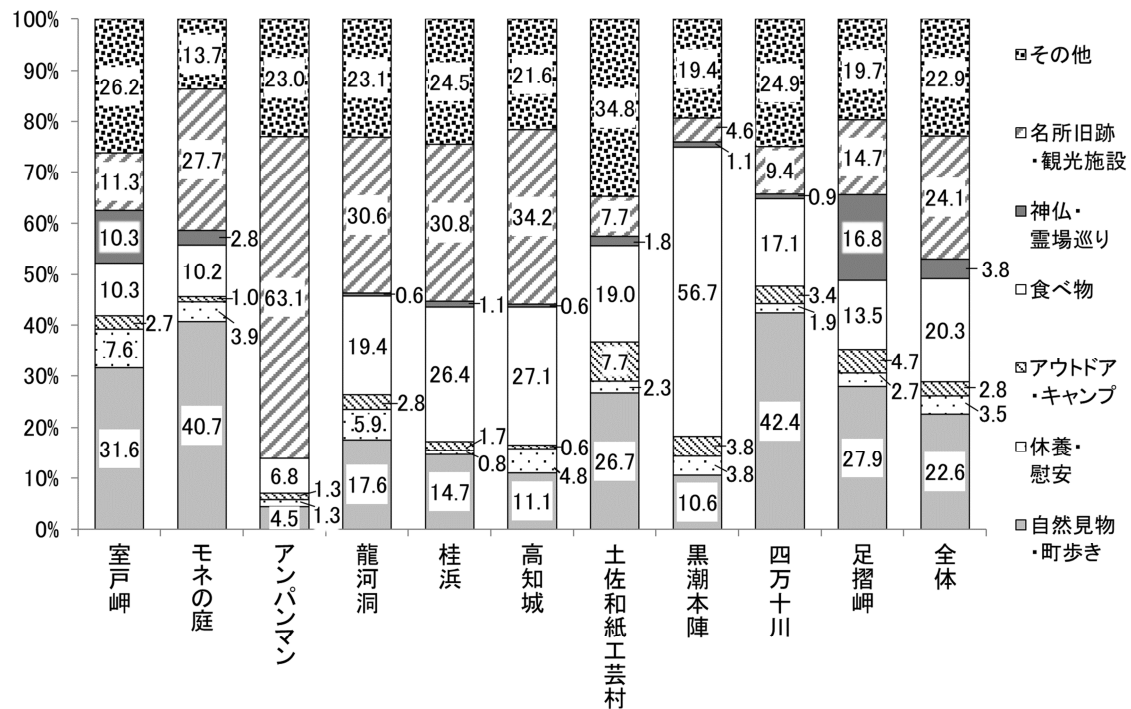
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、室戸岬、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、足摺岬は「ホテル・旅館」「その他」の順で、その他の調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

12 調査地別割合

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [R5 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [R5 年]

	自然見物・町歩き	休養・慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡・観光施設	その他
室戸岬	31.6	7.6	2.7	10.3	10.3	11.3	26.2
モネの庭	40.7	3.9	1.0	10.2	2.8	27.7	13.7
アンパンマン	4.5	1.3	1.3	6.8	0.0	63.1	23.0
龍河洞	17.6	5.9	2.8	19.4	0.6	30.6	23.1
桂浜	14.7	0.8	1.7	26.4	1.1	30.8	24.5
高知城	11.1	4.8	0.6	27.1	0.6	34.2	21.6
土佐和紙工芸村	26.7	2.3	7.7	19.0	1.8	7.7	34.8
黒潮本陣	10.6	3.8	3.8	56.7	1.1	4.6	19.4
四万十川	42.4	1.9	3.4	17.1	0.9	9.4	24.9
足摺岬	27.9	2.7	4.7	13.5	16.8	14.7	19.7
全体	22.6	3.5	2.8	20.3	3.8	24.1	22.9

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別の旅行目的をみると、「室戸岬」、「四万十川」、「足摺岬」は“自然見物”“その他”の順で多く、その他の内訳では、「室戸岬」と「足摺岬」が“なんとなく（ドライブを含む）”、「四万十川」は“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「モネの庭」は“自然見物・町歩き”“名所旧跡・観光施設”の順で多くなっている。

「アンパンマンミュージアム」と「龍河洞」は“名所旧跡・観光施設”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「桂浜」と「高知城」は“名所旧跡・観光施設”“食べ物”の順で多くなっている。

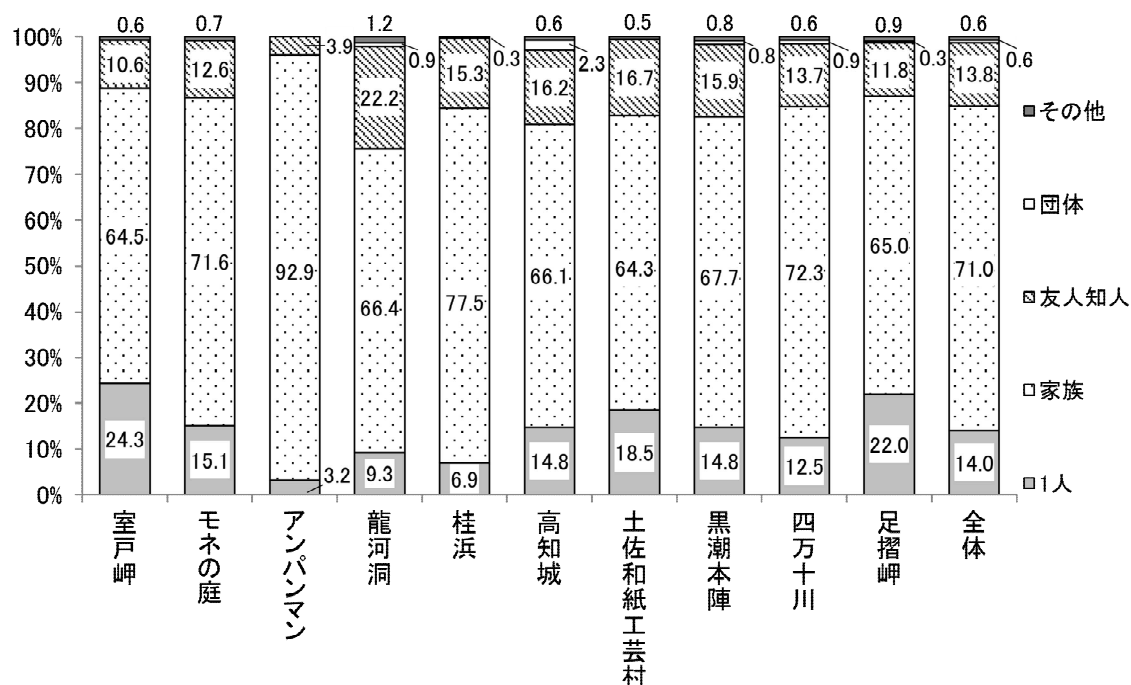
「土佐和紙工芸村」は“その他”“自然見物・町歩き”の順で多く、その他の内訳では、“なんとなく（ドライブを含む）”が最も多くなっている。

「黒潮本陣」は“食べ物”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

旅行目的別に割合が最も多くなった調査地をみると、“自然見物・町歩き”は42.4%で「四万十川」、「休養・慰安」は7.6%で「室戸岬」、「アウトドア・キャンプ」は7.7%で「土佐和紙工芸村」、「食べ物」は56.7%で「黒潮本陣」、「神仏・霊場巡り」は16.8%で「足摺岬」、「名所旧跡・観光施設」は63.1%で「アンパンマンミュージアム」となっている。

12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [R5 年]

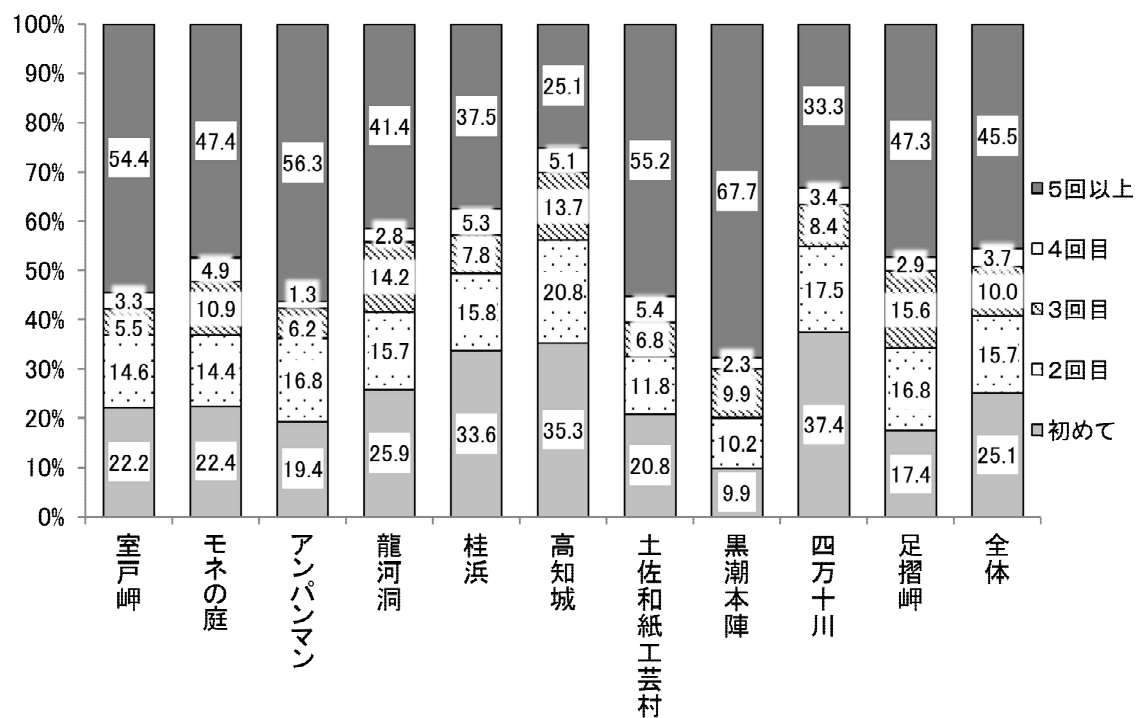


調査地別の旅行形態割合をみると、すべての調査地で「家族」が最も多く、次いで、室戸岬、モネの庭、土佐和紙工芸村、足摺岬は「1人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別に割合が最も多くなった調査地をみると、「1人」は24.3%で室戸岬、「家族」は92.9%でアンパンマンミュージアム、「友人知人」は22.2%で龍河洞、「団体」は2.3%で高知城、「その他」は1.2%で龍河洞となっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [R5 年]



(表 12-5) 過去来県回数割合(%) [R2 年～R5 年]

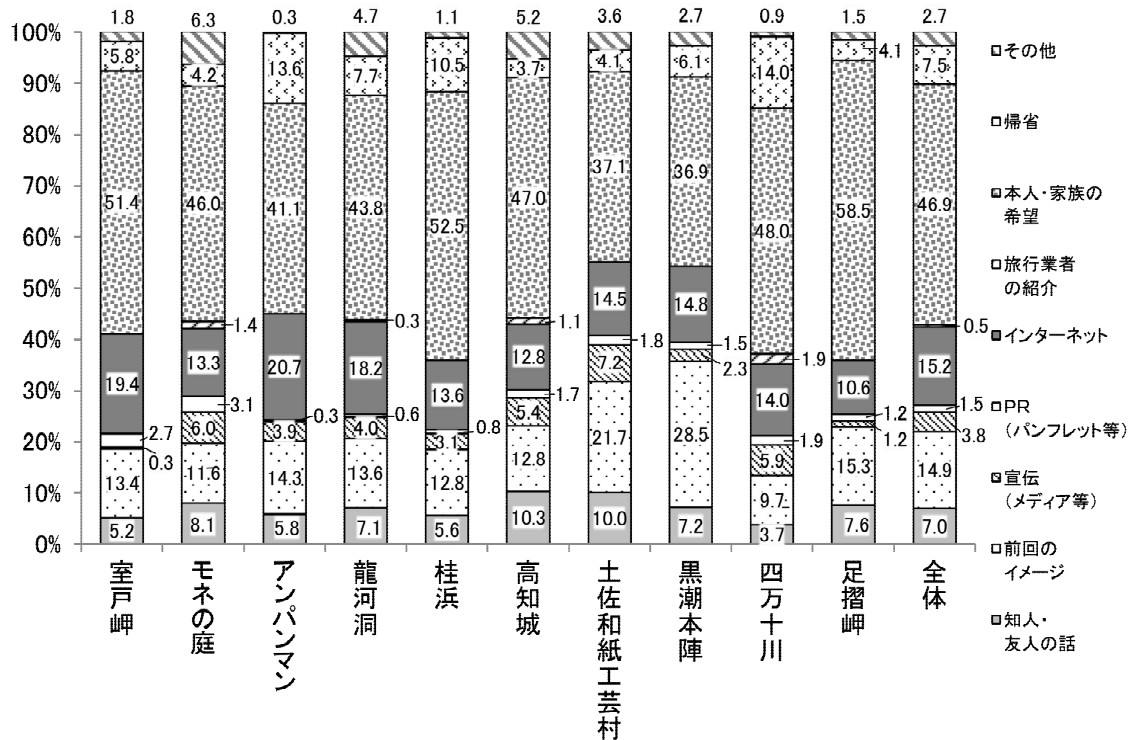
	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上
R2 年	23.1	14.1	9.9	3.6	49.3
R3 年	25.8	13.9	11.7	3.5	45.1
R4 年	25.9	14.7	9.4	4.0	46.0
R5 年	25.1	15.7	10.0	3.7	45.5

全体の過去来県回数は、「5回以上」が45.5%と最も多く、次いで「初めて」が25.1%、「2回目」が15.7%、「3回目」が10.0%、「4回目」が3.7%と続いている。

来県回数別に割合が最も多くなった調査地をみると、「初めて」は37.4%で四万十川、「2回目」は20.8%で高知城、「3回目」は15.6%で足摺岬、「4回目」は5.4%で土佐和紙工芸村、「5回以上」は67.7%で黒潮本陣となっている。

12.4 動機割合

(図 12-6) 調査地別動機割合(%) [R5 年]



(表 12-7) 調査地別動機割合(%) [R5 年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	5.2	13.4	0.3	2.7	19.4	0.0	51.4	5.8	1.8
モネの庭	8.1	11.6	6.0	3.1	13.3	1.4	46.0	4.2	6.3
アンパンマン	5.8	14.3	3.9	0.3	20.7	0.0	41.1	13.6	0.3
龍河洞	7.1	13.6	4.0	0.6	18.2	0.3	43.8	7.7	4.7
桂浜	5.6	12.8	3.1	0.8	13.6	0.0	52.5	10.5	1.1
高知城	10.3	12.8	5.4	1.7	12.8	1.1	47.0	3.7	5.2
土佐和紙工芸村	10.0	21.7	7.2	1.8	14.5	0.0	37.1	4.1	3.6
黒潮本陣	7.2	28.5	2.3	1.5	14.8	0.0	36.9	6.1	2.7
四万十川	3.7	9.7	5.9	1.9	14.0	1.9	48.0	14.0	0.9
足摺岬	7.6	15.3	1.2	1.2	10.6	0.0	58.5	4.1	1.5
全体	7.0	14.9	3.8	1.5	15.2	0.5	46.9	7.5	2.7

※ 背景色＋太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合をみると、「本人・家族の希望」が46.9%と最も多く、次いで「インターネット」が15.2%、「前回のイメージ」が14.9%、「帰省」が7.5%と続いている。

動機別に割合が最も多くなった調査地をみると、「知人・友人の話」は10.3%で高知城、「前回のイメージ」は28.5%で黒潮本陣、「宣伝（メディア等）」は7.2%で土佐和紙工芸村、「PR（パンフレット等）」は3.1%でモネの庭、「インターネット」は20.7%でアンパンマンミュージアム、「旅行業者の紹介」は1.9%で四万十川、「本人・家族の希望」は58.5%で足摺岬、「帰省」は14.0%で四万十川となっている。

13 ＜参考＞委託業者の所見

新型コロナウイルスの発生から約3年が経過。政府は令和5年5月8日から新型コロナウイルスの感染法上の分類を、季節性インフルエンザと同等の「5類」に引き下げることが4月27日に決定した。それに伴い、令和4年から実施していた「全国旅行支援」の利用ではワクチン接種証明や陰性証明書の提示を廃止した。日常生活においても、マスク着用の自由化や濃厚接触者の外出自粛がなくなり、コロナ禍前の日常に戻ってきた。

ウィズコロナからアフターコロナへの転換期を迎えた令和5年の高知県の県外観光旅行者数は平成30年に過去最多を記録した441万人を上回り、472万人の入込となった。その大きな要因として、連続テレビ小説『らんまん』（以下、『らんまん』）の放映が影響したことは言うまでもない。高知県では、『らんまん』の放映にあわせて、高知県観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」を開催した。高知県立牧野植物園をはじめ、牧野富太郎の故郷・佐川町やゆかりの地を中心に、その土地ならではの、四季折々の草花や歴史文化、自然などの魅力を発信してきた。牧野植物園では、新研究棟「植物研究交流センター」の完成や展示館のリニューアルなども後押しとなり、10月に入園者数が過去最多の21万人を超えて30万人を突破したこともまだ記憶に新しい。

このように、コロナ禍前のように旅行を楽しむ人々が戻ってきたなかで行った観光統計調査の分析結果を参考に、多変量解析を用いた県内消費額の分析とルート分析、観光動向調査の結果を用いて、物部川エリアに訪れる旅行者の現状や課題を報告する。

1. 県内消費額に関する分析と考察

ここでは、県内消費額の変動に影響を与える要因について分析した結果とその説明、および考察を記載する。

旅行の主要な目的が「観光」と回答した県外旅行者（n=2,605）の、消費額と旅行者の行程や属性について、相関係数 r （2つのデータの関係の強弱を測る指標）を求めた結果は、表 13-1 のとおりである。

相関係数の見方の目安として用いられている尺度を参考に、この結果から得られる例を挙げると、「出発地からの距離」と「交通費」との間には強い正の相関があり、遠方から訪れる旅行者ほど交通費が多くなる傾向が強く、逆に負の相関がある「来県回数」と「出発地からの距離」に着目すれば、来県回数が多い旅行者ほど出発地からの距離が少ない（近い）傾向があることなどが分かる。

相関係数の大きさと相関の程度の尺度

$-1.0 \leq r \leq -0.7$	$-0.7 \leq r \leq -0.4$	$-0.4 \leq r \leq -0.2$	$-0.2 \leq r \leq 0.2$	$0.2 \leq r \leq 0.4$	$0.4 \leq r \leq 0.7$	$0.7 \leq r \leq 1.0$
強い負の相関	負の相関	弱い負の相関	ほとんど相関がない	弱い正の相関	正の相関	強い正の相関

（表 13-1）相関係数 [R5 年・観光目的]

		消費額の費目					行程		属性(※)			
		交通費	宿泊費	土産代	飲食費	その他	県内宿泊数	立寄数	出発地からの距離	来県回数	同行者の人数	同行者の年代
消費額の費目	交通	1										
	宿泊費	0.283	1									
	土産代	0.174	0.359	1								
	飲食費	0.327	0.420	0.397	1							
	他	0.065	0.201	0.111	0.133	1						
行程	県内宿泊数	0.438	0.631	0.340	0.654	0.160	1					
	立寄数	0.218	0.355	0.181	0.326	0.215	0.424	1				
属性(※)	出発地からの距離	0.796	0.320	0.205	0.343	0.071	0.454	0.239	1			
	来県回数	-0.366	-0.286	-0.155	-0.223	-0.035	-0.304	-0.243	-0.460	1		
	同行者の人数	-0.307	0.018	-0.007	-0.093	0.056	-0.086	-0.058	-0.131	0.003	1	
	同行者の年代	0.028	0.020	0.041	-0.024	-0.012	0.041	0.045	-0.003	0.214	-0.098	1

(※)「出発地からの距離」は、出発地の都道府県庁所在地を基準とした直線距離の概算値。
「来県回数」は、グループ全体で各個人の回答が得られている場合はグループの平均値。
得られていない場合は回答者個人の回答値。

旅行者の行程「県内宿泊数」「立寄数」「出発地からの距離」と消費額の複数の費目には互いに正の相関があり、一方が多くなれば、もう一方も多くなる傾向がある。特に「出発地からの距離」と交通費や「県内宿泊数」と宿泊費、飲食費はその傾向が強くみられる。その一方で、「来県回数」が多い旅行者ほど、交通費や宿泊費は少なくなる傾向があり、近隣からの旅行者やリピーターほど負の相関があると考えられる。

上記で求めた相関係数を参考に、消費額に影響を与える傾向があると考えられる項目について重回帰分析（ある結果（目的変数）について、関連する複数の要因（説明変数）それぞれの影響度を数値化し、結果の予測を行う手法）を行った結果は、表 13-2 のとおりである。

なお、目的変数 y は「現地消費額（県内交通費をのぞく 4 費目の合計）」、説明変数の x_1 は「県内宿泊数」、 x_2 は「立寄数」、 x_3 は「出発地からの距離」としている。また、重回帰式の当てはまりの良さを表す指標、補正 R^2 （自由度調整済み決定係数）は 0.66 となった。

（表 13-2）重回帰分析 [R5 年・観光目的]

重回帰統計	
重相関 R	0.811122
重決定 R^2	0.657919
補正 R^2	0.657525
標準誤差	12656.68
観測数	2605

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%
切片	4251.041	465.3375	9.135395	1.28E-19	3338.572	5163.511
県内宿泊数(泊)	12592.05	305.385	41.23335	2E-286	11993.22	13190.87
立寄数(ヶ所)	1230.749	194.9459	6.313284	3.2E-10	848.484	1613.014
出発地からの距離(km)	34.80908	1.376106	25.29534	2.1E-126	32.1107	37.50745

この結果から重回帰式は、以下のように表すことができる。

$$y = 4,251 + 12,592x_1 + 1,231x_2 + 35x_3$$

※現地消費額 = 4,251 + (12,592 × 県内宿泊数) + (1,231 × 立寄数) + (35 × 出発地からの距離)

この重回帰式から、他の説明変数を固定した（変化させない）場合、現地消費額は県内宿泊数が 1 泊増えるごとに 12,592 円、立寄数が 1 ヶ所増えるごとに 1,231 円、出発地からの距離が 1 km 増えるごとに 35 円増加すると予測できる。

相関係数と多変量分析の結果を参考に、今年度の県内平均消費額について費目ごとの主な変動要因を考察した結果は以下の通り。なお、前年と比べ、すべての費目で増加しており、「宿泊費」は717円、「交通費」が412円、「土産代」が251円、「飲食費」が164円、「その他」が19円増加（P35：表10-1）となっている。

「宿泊費」は、旅行日数が2.1日と横ばい（P24：図5-1）となっているが、県内利用宿泊施設の76.4%と大半を占めるホテル・旅館（P32：図9-1）の1泊あたりの平均単価を算出してみると、R3年から増加傾向にあり、前年と比べ約1,300円増加し、直近5年で最も高い11,445円となっている（P52：表13-3）。

（表13-3）ホテル・旅館1泊あたりの平均宿泊単価〔R元年～R5年〕

	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
平均単価	9,860	9,710	9,595	10,181	11,445

※県内旅行者及び海外旅行者、旅行代理店のフリープラン・パッケージツアーを利用した旅行者を除く。

「宿泊費」と同様に、他の費目においても、昨今のガソリン価格や物価の高騰等が要因のひとつになっていると考えられるが、「交通費」は、かかった交通費が人数割り計算されることから、1人旅の旅行者が前年から0.7%微増（P29：表8-1）している影響も一因となっている。「土産代」と「飲食費」は、先述した相関係数にあるように遠方から訪れる旅行者ほど現地消費額が増加する傾向があり、前年から四国の入込が減少している一方で、中国や九州・沖縄が増加（P20：表4-1）したことも影響していると思われる。

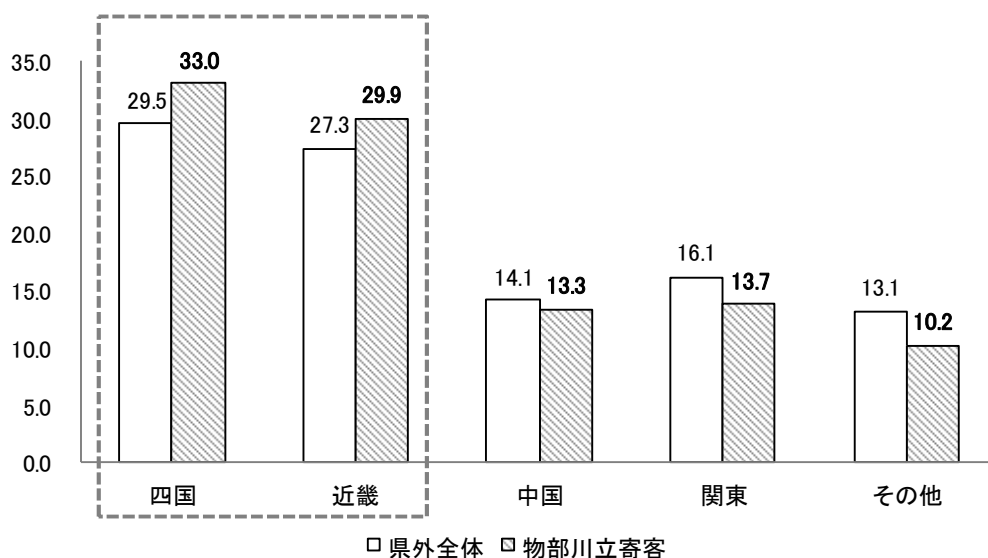
これらの要因が重なり、県内平均消費額が前年より1,563円増加したものと推測される。

2. 物部川エリアに訪れた旅行者の現状と課題

令和5年10月、連続テレビ小説『あんぱん』（以下、『あんぱん』）の制作が発表され、令和7年度前期に放映を控え、誘客に大きな期待ができる物部川エリアを訪れた旅行者の現状とそこからみえてきた課題について、観光統計調査とルート分析の集計結果等を活用して報告する。

（※）図表内の「物部川立寄客」は物部川エリアを訪れた旅行者で、その他のエリアを立寄った周遊パターンも含む。

（図 13-4）県外全体と物部川立寄客の発地ブロック別入込割合（%）[R5 年]



まず、県外全体と物部川立寄客で発地ブロック別入込割合を比較すると、物部川立寄客は、「四国」が3.5ポイント、「近畿」が2.6ポイント多くなっている一方で、「その他」が2.9ポイント、「関東」が2.4ポイント、「中国」が0.8ポイント少なくなっている。物部川エリアを訪れる旅行者は「四国」と「近畿」の近隣2ブロックだけで6割以上を占めている。

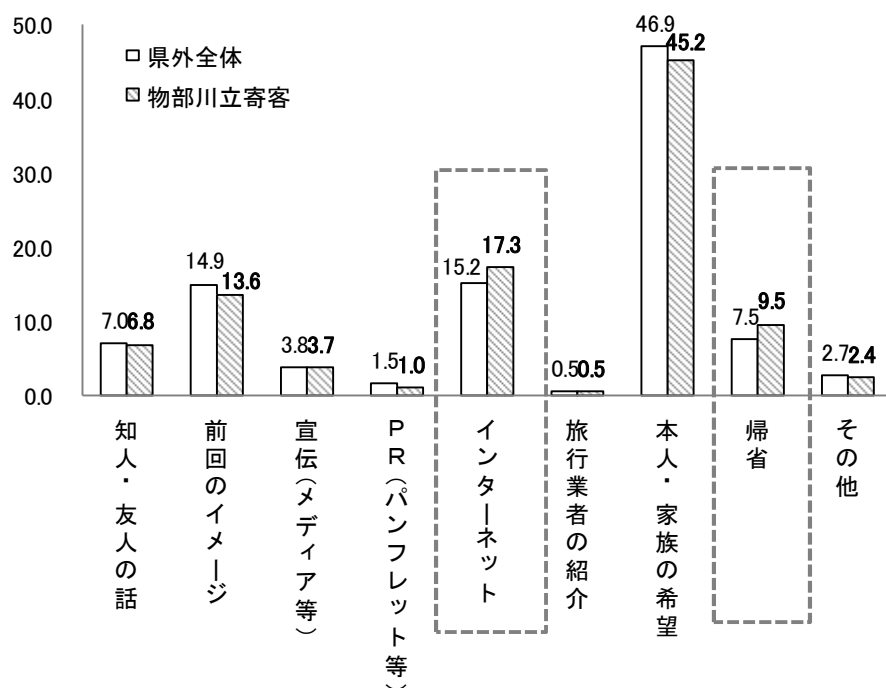
(表 13-5) 県外全体とエリア別の旅行形態割合(%) [R5 年]

	1 人	家族	友人知人	団体	その他
県外全体	15.2	72.0	11.5	0.7	0.5
東部	21.9	68.1	9.2	0.0	0.8
物部川	4.0	89.3	5.9	0.4	0.4
高知市	13.1	69.8	15.2	1.7	0.2
仁淀川	21.3	64.0	14.7	0.0	0.0
高幡	20.0	62.7	14.5	1.8	0.9
幡多	18.9	69.1	11.2	0.0	0.7

※各エリアだけで県内観光を終えた旅行者のみを集計対象としている。

次に、エリア別の旅行形態割合をみると、物部川エリアは他のエリアと比較して「家族」が 89.3%と最も多くなっている一方で、「1 人」や「友人知人」が少ないことが分かる。

(図 13-6) 県外全体と物部川立寄客の動機割合(%) [R5 年]



続いて、県外全体と物部川立寄客で動機割合を比較すると、物部川立寄客は、「インターネット」が 2.1 ポイント、「帰省」が 2.0 ポイント多くなっている一方で、「旅行業者の紹介」を除くすべての動機で少なくなっている。

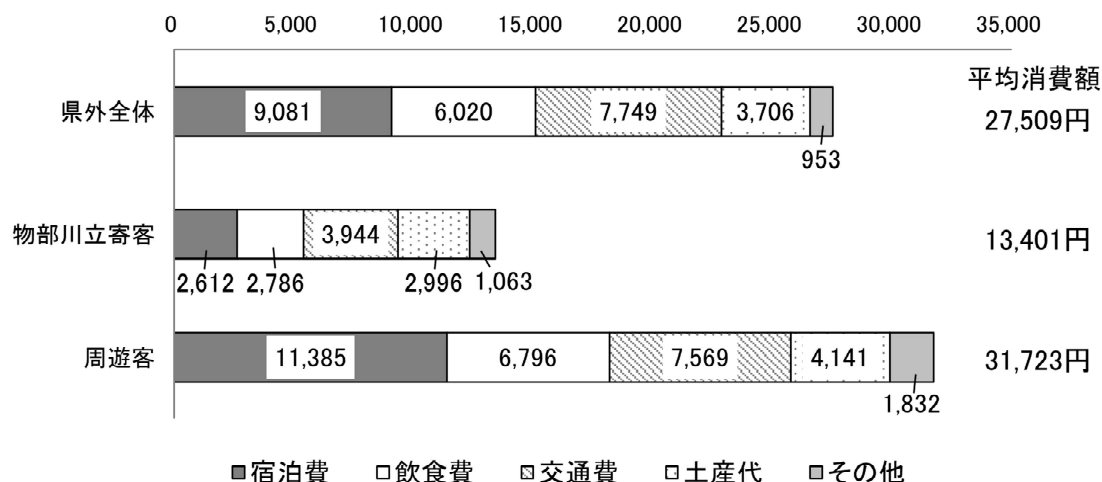
これらの結果から、現状のペルソナ（物部川エリアに訪れる典型的な旅行者層）は、近隣ブロックからのファミリー客であり、インターネットを見て、あるいは帰省時に訪れるケースが多い。この層を意識したプロモーションや告知方法が消費行動や周遊の促進に効果を発揮すると考えられる。

物部川エリアには、アンパンマンミュージアムをはじめ、龍河洞やのいち動物公園等、特にファミリー客のニーズが高い観光スポットが集中しており、県内エリアの中では大きな強みとなっている。この特徴を活かして、各スポットが親子で楽しめる体験プログラム等の造成、ブラッシュアップや、子ども向けの周遊スタンプラリー等を開催したりすることで、物部川エリア内での滞在時間や県内消費額の増加に期待できるのではないだろうか。

その他、観光スポットだけでなく、飲食店や土産物店等においても親子で利用できるトイレの設備を進めることや、子ども用のイスの貸し出し、ベビーカーでも移動できるスロープの整備などといった安心・安全な環境を提供していくことが重要だと思われる。

また、「朝ドラ視聴者調査 2018」には、近年の視聴者層は 60 代以上の年代が約 5 割と述べられている。この傾向から『あんばん』の放映においても、シニア層の入込が増えることも予想される。3 世代家族や 60 代以上の夫婦・友人グループとの旅行者が訪れることも考えれば、『あんばん』にスポットを当てた、3 世代でゆっくり周れるコースづくりやボランティアガイドの養成等も求められそうだ。

(図 13-7) 県外全体と物部川立寄客の県内消費額(円)[R5 年・観光のみ]



最後に県内消費額に関する現状と課題を考察する。県外全体と物部川立寄客（物部川エリアだけで県内観光を終えた旅行者）、周遊客（物部川エリアと他エリアに立寄った旅行者）で県内消費額を比較すると、大きな差があることは一目瞭然の結果となった。

物部川立寄客は県外全体と比べて合計で 14,108 円もの差があり、「その他」を除くすべての費目で目立って低くなっている。なお、「その他」には観光施設等への入場料を含むことから、入場料が発生するアンパンマンミュージアムと龍河洞は本調査の調査地点となっている影響が大きいと捉えてよい。

次に、周遊客は県外全体と比べて合計で 4,214 円高くなっており、「交通費」を除くすべての費目で高くなっている。物部川エリア内での周遊を促すための施策はもちろん欠かせないが、県内消費額を増加させることに着目すると、いかにして「高知市」や「東部」等の広域で周遊してもらうかが鍵になる。『あんぱん』が放映されることを踏まえたうえで、一例を挙げると、アンパンマン列車や各駅にやなせたかし先生が描いたイメージキャラクターがいる土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線を活用してみるのはどうだろうか。

「アンパンマン」「やなせたかし」などをキーワードに、旅の移動中もそういった素材が楽しめられるということを PR していくことで、ファミリー客や『あんぱん』ファンの周遊促進を強く推し進めたい。

最後になるが、『あんぱん』の放映がはじまると、アンパンマンミュージアムをはじめ、物部川エリアには多くの旅行者が集中することは想像に難くない。この機会をチャンスとし、官民一体で万全な受入体制を整えてもらい、そして、訪れた旅行者が物部川エリア、高知県に愛着を抱き、今後のファン、リピーターになってくれることを願う。

高知県観光客アンケート調査票

- Q 1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。
また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名：) 海外の場合 (国名：)

高知県内の場合
→ (市町村名)

- Q 2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代
6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

- Q 3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。
また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り 2. 宿泊

宿泊した施設の数
↓
宿泊数 泊 → そのうち県内 泊 ⇒ 県内宿泊施設数 施設

＜県内宿泊施設＞

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

＜県内宿泊場所＞

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

- Q 4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス
2. 観光

「2. 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えて下さい。

01 自然見物・町歩き 02 休養・慰安 03 祭り・イベント
04 登山・アウトドア・キャンプ 05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)
06 食べ物 (味覚・酒) 07 神仏・霊場巡り 08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽 10 なんとなく (ドライブ等含む)
11 ワークেশョン 12 その他 ()

3. 帰省・知人訪問
4. (1～3のどれでもない) その他

- Q 5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話 2. 前回のイメージ 3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等) 5. インターネット (携帯電話含む)
6. 旅行業者の紹介・ツアー参加 7. 来たかった・家族の希望
8. 帰省 9. その他

Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒に旅行ですか。※子供や乳幼児も含む

() 人

2人以上の場合

→ 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目以上 () 回目

Q10. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

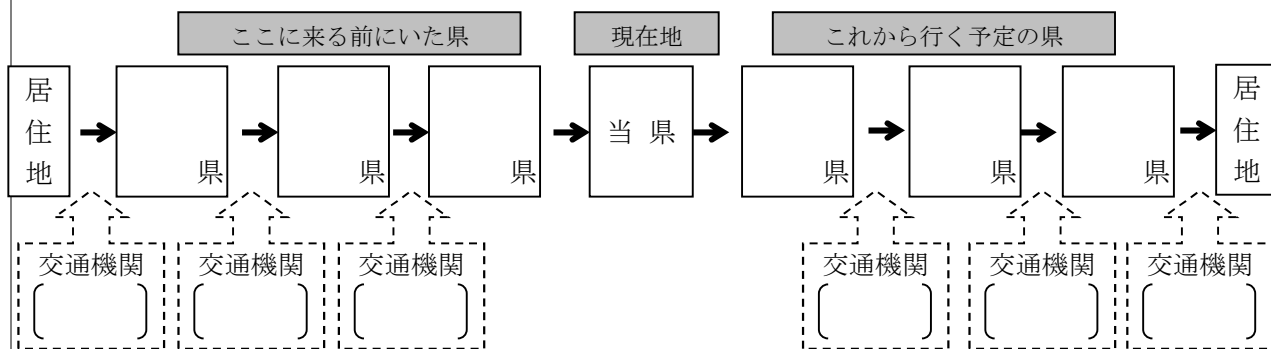
また、この県に訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

高知県までの主な交通機関		[]		高知県内での主な交通機関		[]						
ここに来る前にいた場所												
居住地	→		→		→		→		→		→	調査地点
		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関
		[]		[]		[]		[]		[]		[]
これから行く予定の場所												
調査地点	→		→		→		→		→		→	居住地
		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関
		[]		[]		[]		[]		[]		[]

【表】交通機関

- | | | | | |
|------------------------|-------------|-------------|---------------|------------|
| ① J R 新幹線 | ② J R 在来線 | ③ 私鉄・地下鉄 | ④ モノレール | ⑤ - 1 貸切バス |
| ⑤ - 2 観光バス (MY 遊バス等含む) | ⑥ 高速バス | ⑦ 市内バス・路線バス | | |
| ⑧ 路面電車 | ⑨ タクシー・ハイヤー | ⑩ レンタカー | ⑪ 自家用車、社用・公用車 | |
| ⑫ 飛行機 | ⑬ フェリー | ⑭ バイク | ⑮ その他 | |

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ - 1 貸切バス
 ⑤ - 2 観光バス (MY 遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
 ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
 ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入

※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択

※ ☐ ← 表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用	
①交通費	(県内分)	円	(県外分)	円
②宿泊費	(県内分)	円		
③土産代	(県内分)	円		
④飲食費	(県内分)	円		
⑤入場料	(県内分)	円		
⑥その他	(県内分)	円		
⑦パック料金				円
			↑ ☐ 県内分のみ もしくは ☐ 県外分含む	

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード

1. 観_共通_日

都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
			:	

・高知県の「人」の印象と高知県への再訪意向について

Q1 高知県の「人」の印象を教えてください。

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い 6 特に印象はない

Q2 再び、高知県に観光で訪れたいと思いますか。

- 1 1年以内に訪れたい 2 5年以内に訪れたい 3 10年以内に訪れたい 4 再度訪れたいとは思わない

Q3 Q2で1～3とご回答の方にお聞きします。

次回の高知旅行の際は、どのくらいの期間で旅行したいですか。

- 1 日帰り旅行 2 宿泊旅行 () 泊

・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしトイレ」や「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q4 「おもてなしタクシー」をご存じですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q5 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】 ()

Q6 「おもてなしトイレ」をご存知ですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q7 「おもてなしトイレ」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしトイレ」の快適性について

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】 ()

・世界的な植物学者「牧野富太郎」について

Q8 世界的な植物学者「牧野富太郎」をご存じですか。

- 1 知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q9 「牧野富太郎」の生誕地が高知県（佐川町）であることをご存じですか。

- 1 知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q10 県内の牧野富太郎ゆかりの主なスポット（牧野植物園、佐川町牧野公園、越知町横倉山自然の森博物館のいずれか）に行ったことがありますか。

- 1 今回（もしくは以前）の旅行で行った 2 今回の旅行で行く予定 3 行ったことはないが機会があれば訪れてみたい 4 あまり興味がない

Q11 上記（Q10）で1とご回答の方にお聞きします。

施設の整備状況やガイド、展示解説などについての満足度はいかがでしたか。

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

Q12 上記（Q10）で1とご回答の方にお聞きします。

牧野ゆかりのスポットに再び訪れてみたいと思いますか。

- 1 ぜひ訪れたい 2 機会があれば訪れたい 3 そうは思わない

・高知県では、本県の強みである豊かな自然環境を活かし、誰もが楽しむことができるサイクリングコースの環境整備等を進めています。

Q13 移動中の風景を楽しむことや、体を動かすことを目的に、旅行中、高知県内で自転車を利用しましたか？

※ご自身の自転車の利用やレンタル（電動自転車含む）等、利用形態や乗車時間は問いません。

- 1 利用した 2 利用していない

【理由】 ()

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆